

目 次

目 次	… … …	1
1. 2005（平成 17）年度の主な活動	… … …	3
* 2005（平成 17）年度の入館者	… … …	5
2. 資料の収集・利用	… … …	6
2-1 資料の収集		
(1) 受 贈		
(2) 購 入		
(3) 保管換		
(4) 寄 託		
2-2 資料の利用	… … …	7
(1) 貸 与		
(2) その他		
3. 展示活動	… … …	9
3-1 常設展示		
(1) 歴史展示		
(2) 美術・工芸展示	… … …	11
(3) 別館展示	… … …	16
(4) その他館内展示物		
3-2 特別展示	… … …	17
(1) 自主企画展		
(2) 共催展等	… … …	19
* 2005（平成 17）年度特別展の開催状況		
(3) 館外共催事業	… … …	22
(4) 京都府民ギャラリー事業への協力		
3-3 映 画	… … …	24
(1) 常設上映		
(2) 特別上映・共催事業	… … …	25
(3) 映像ギャラリー常設展示	… … …	26
(4) 映画関係資料の整理		
(5) 京都府映像文化センター運営委員		
4. 調査研究活動	… … …	27
4-1 学芸員の活動		
(1) 博物館研究費による研究		
(2) 外部研究費・共同研究等による研究		
(3) 出講・委嘱		
(4) 学芸員の業績		
(5) ワークショップ	… … …	30

5. 普及活動	… … … 31
5-1 出版物	
(1) 京都文化博物館研究紀要『朱雀』	
(2) 京都文化博物館年報	
(3) 展覧会図録	
5-2 講演会・音楽会	… … … 32
(1) 講演会など	
(2) 音楽会	
(3) その他	
5-3 博物館実習	… … … 34
5-4 その他の活動	
(1) 資料閲覧室	
(2) 文化情報コーナー	
(3) 生涯学習ボランティア	
(4) 団体案内	… … … 35
(5) 京都文化博物館友の会	
(6) 地域との連携	… … … 36
6. ギャラリー事業	… … … 38
6-1 5・6階展示室	
(1) 京都文化財団展示室運営委員会	
(2) 美術・工芸作家の利用	
(3) 生涯学習的発表期間の利用	… … … 39
(4) 一般の利用	… … … 40
6-2 別館ホール	… … … 41
7. 管理・運営	… … … 42
7-1 経営・企画委員会	
7-2 組織と職員	
(1) 組織	
(2) 京都文化財団役員	… … … 43
(3) 京都文化博物館職員	
7-3 施設	… … … 44
(1) 本館関係	
(2) 別館関係	
7-4 ろうじ店舗	
8. 2005（平成17）年度のおゆみ	… … … 46

1. 2005（平成17）年度の主な活動

2004（平成16）年4月の活性化検討委員会による京都府知事への「京都文化博物館活性化提言」をうけて、京都文化博物館内に民間識者等で構成される助言機関「京都文化博物館経営・企画委員会」が設置された。2005（平成17）年度には、1)「別館（旧日本銀行京都支店）活用小委員会」、2)「中長期展望・常設展・IT小委員会」、3)「マネージメント・特別展情報収集等小委員会」の三つの小委員会をもうけ、本委員会と小委員会の2本柱で審議をすすめ、また小委員会内には適宜ワーキング・グループ会議を開催し、議論の迅速化をはかることとした。

こうした流れのなかで、別館活用問題は、京都府の「京都文化博物館にぎわい創出事業」として具体化し、三条通側正面エントランス周りの整備、館内東西展示室・中央ホールおよび中庭の集客性向上へ向けての施設整備・改修、駐輪場の設置などを実現したうえで、2005年5月14日無料ゾーンとしてリニューアルオープンした。初年度は博物館らしい運用のありかたを探るための試行期間であるという意味で、「使用要項」を設けたうえで、様々な試みを行なった。

なお、委員会、小委員会は2006（平成18）年度に向け、第2、第3テーマに関する小委員会を中心に討議を重ね、常設展示場のリニューアル問題を中心に、引き続き議論を重ねているところである。

今年度の自主企画特別展は、6・7月に「千總コレクション 京の優雅～小袖と屏風～」を、3・4月に「京の食文化展～京料理・京野菜の歴史と魅力～」を開催した。

「京の優雅展」は、創業450年を迎える京都きっての友禅の老舗「千總」のコレクション展である。凶案などの参考にするために資料として収集された小袖や名だたる日本画家、



2005年5月 別館リニューアルオープン式典テープカット
(左から西村真一氏・田坂幾太氏・山田知事・荒巻館長・斎藤齋王代)



2005年5月 新装なった別館正面



2005年5月 ライトアップされる別館



「京の優雅展」ちらし

図案家たちの手になる屏風などである。都ゆえの洗練と優雅、町衆の美意識の高さと教養に共鳴する最高の技術と意匠をもとめてやまない、一企業の誇りと飽くなき探究心の現れとしての優品群である。千年の都ならではの展覧会であったといってよいであろう。

「京の食文化展」は、1200年の歴史と伝統のなかで培われてきた「京の食」について、歴史的民俗的な観点から、絵画、文献資料、模型、民具などによって紹介を試みたものであった。いま世は食と健康のちょっとしたブームである。料理、野菜、菓子、漬物、酒と話題は尽きないが、この展覧会は料理と食品に話題を限定せず、食材生産の現場まで立ち回り、生産用具とその使用法などにも目を配り、都という文化性とともに海から遠い内陸盆地という風土性にも着目し、広い視野で食文化をとらえようとした点で評価されるべき展覧会であった。



「京の食文化展」ちらし

入場者は「京の優雅展」が41,295人、「京の食文化展」が20,120人、8件の特別展の総入場者数は349,229人で、前年を大幅に上回ることができた。ただし、常設展示の入場者数は56,448人で微増にとどまった。総入館者数は583,277人である。

◇自主企画展の巡回事業

2004年度の自主企画展『古代エジプト文明3000年の世界』を、東京都池袋の古代オリエント博物館（主催：古代オリエント博物館）、沖縄県浦添市美術館（主催：RKB琉球放送、浦添市美術館）、鹿児島県立歴史資料センター黎明館（主催MBC南日本放送、京都文化博物館）の3会場へ巡回した。自主企画展を京都文化博物館単独事業として巡回するのは初めてのことであったが、3会場あわせて約8万人の入場があり大変好評であった。

◇常設展における特別展関連企画の試み 「煮る・炊く・播る―出土した炊事・調理器具―」（12月13日～2006年4月16日）

2006年3月11日から4月16日まで開催した特別展「京の食文化展―京料理・京野菜の歴史と魅力―」の関連企画として、2階の歴史展示特別陳列コーナーで「煮る・炊く・播る―出土した炊事・調理器具―」を特集した。

2005（平成17）年度の入館者一覧

（単位：人）

年月	常設展			特別展			計			ギャラリー				総計
	有料	無料	計	有料	無料	計	有料	無料	計	作家	一般	別館	計	
2005.4	2,279	1,352	3,631	67,669	16,342	84,011	69,948	17,694	87,642	5,283	5,385	500	11,168	98,810
5	3,911	1,868	5,779	110,798	16,600	127,398	114,709	18,468	133,177	4,035	1,720	3,613	9,368	142,545
6	2,893	1,776	4,669	8,441	10,042	18,483	11,334	11,818	23,152	4,191	3,831	2,010	10,032	33,184
7	2,699	3,292	5,991	11,488	13,249	24,737	14,187	16,541	30,728	3,250	1,909	3,526	8,685	39,413
8	3,437	1,573	5,010	22,879	7,271	30,150	26,316	8,844	35,160	2,651	5,714	4,520	12,885	48,045
9	2,540	1,447	3,987	2,508	2,401	4,909	5,048	3,848	8,896	2,362	4,172	6,546	13,080	21,976
10	4,036	1,942	5,978	3,331	4,022	7,353	7,367	5,964	13,331	4,497	3,652	20,169	28,318	41,649
11	2,455	2,895	5,350	6,540	6,275	12,815	8,995	9,170	18,165	5,194	5,851	7,374	18,419	36,584
12	2,398	1,245	3,643	3,580	3,372	6,952	5,978	4,617	10,595	5,245	2,021	2,664	9,930	20,525
2006.1	1,373	817	2,190	9,237	7,536	16,773	10,610	8,353	18,963	2,363	3,723	7,471	13,557	32,520
2	3,237	1,713	4,950	1,657	3,614	5,271	4,894	5,327	10,221	1,812	8,013	3,196	13,021	23,242
3	3,905	1,365	5,270	5,569	4,808	10,377	9,474	6,173	15,647	4,826	3,522	20,789	29,137	44,784
年度計	35,163	21,285	56,448	253,697	95,532	349,229	288,860	116,817	405,677	45,709	49,513	82,378	177,600	583,277
1日平均	114	69	183	1,075	405	1,480	938	379	1,317					

2. 資料の収集・利用

当館の所管資料は、大きく二つに分かれる。一つを館資料、もう一つを管理資料と呼ぶ。館資料は、埋蔵文化財の発掘調査で出土した考古資料が中心で、他に若干の絵画資料や歴史資料など、限られた範囲のものである。一方、管理資料は、京都府立総合資料館所蔵資料のうち、当館が管理をする美術工芸、歴史民俗資料等の文化資料（博物館資料）をいう。これらの資料

については、当館の設立以来、その収集、管理、展示公開業務を総合資料館から委託されており、具体的には同館の収蔵庫で管理しながら、展示を京都文化博物館で行うとともに、収集・利用等についても、その業務を当館で行ってきている。

なお、2005年度末での管理資料は51,132点、寄託資料が332点、一時保管資料が627点であった。

2-1 資料の収集

(1) 受 贈

①管理資料

分 野	作 者	資 料 名	点 数
陶芸ほか	ゴットフリート・ワグネルほか	旭焼釉下彩紅葉に鳥図陶板ほか	7点
陶 芸	林 沐雨	鷹置物ほか	2点
洋 画	松浦 正雄	作品66-333ほか	3点
人 形		古今雛ほか	8点
洋 画	吉村 勲	真夏の夜の夢（シェイクスピア）ほか	3点
染 織	福田喜三郎	金紋織地尾長鳥に花束文様打掛	1点
日本画	本田 功身	緑吹く頃	1点

小計 7件 25点

(2) 購 入

種 別	分 野	作 者	資 料 名	点 数
管理資料	日本画	狩野 永敬	十二ヶ月歌意図屏風	1点
管理資料	日本画	月岡 雪鼎	富岳図	1点

小計 2件 2点

(3) 保管換

種別	分 野	作 者	資 料 名	点 数	受入先
管理資料	歴 史		アコーデオン	1点	京都府宇治児童相談所

小計 1件 1点

(4) 寄 託

種 別	分 野	件点数	分 野	件点数	分 野	件点数	分 野	件点数	分 野	件点数	小 計
館資料	日本画	2件 2点	古文書	23件 24点	典 籍	20件 233点	絵 図	18件 20点	複製模本	1件 1点	152件 790点
	貴重遺物	83件 501点	一般遺物	2件 6点	複製模型	3件 3点	参考資料	1件 1点			
管理資料	日本画	6件 17点	陶 器	2件 98点	民 俗	3件 223点	武 具	1件 4点	染 織	1件 1点	13件 343点

2-2 資料の利用

(1) 貸 与

①館資料

分 野	資 料 名	点数	申 請 者	使用目的(展覧会名)
考 古	西賀茂瓦窯出土軒瓦	2点	吹田市立博物館	常設展示
考 古	西賀茂瓦窯出土軒瓦	2点	向日市文化資料館	常設展示
考 古	元治の大火焼失瓦等	一括	京都国立博物館	龍馬の翔けた時代
考 古	備前角形掛花生	1点	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館	花咲く一乗谷
考 古	高倉宮・曇華院跡出土陶磁器他	25点	瀬戸市埋蔵文化財センター	近世陶磁の消費遺跡一江戸・名古屋・京・大坂一
歴 史	琵琶師範之起	1点	東北歴史博物館	音と人の風景
歴 史	御内裏図	1点	京都国立博物館	龍馬の翔けた時代
模 型	平安京羅城門模型	1点	高山市教育委員会	新しい飛騨の匠像を求めて
				計 8件

②管理資料

分 野	資 料 名	点数	申 請 者	使用目的(展覧会名)
日本画・洋画・版画	佐々木豊「風景(農)」ほか	17点	京都府府民労働部文化芸術室	庁内展示
日本画・風俗	耳鳥斎「天狗寿老鼻頭くらべ」ほか	2点	伊丹市立美術館	「耳鳥斎と大坂の戯画」展
染 織	神坂雪佳原画「紫陽花牡丹」綴織	1点	川島織物文化館	「綴織額『紫陽花牡丹』補修完成記念 神坂雪佳と川島織物」展
陶芸・金工	森野嘉光「緑釉窯変『青・黒・赤花瓶』」ほか	2点	迎賓館京都事務所	京都迎賓館内のしつらえ展示として
日本画	橋田二郎「鳥」	1点	橋田二郎	「春季創画展」
日本画	祇園井特「老媪図」	1点	福島県立博物館	「老い」展
風 俗	高下駄(男)ほか	15点	吹田市立博物館	「ふしぎ探検-足とはきもの」展
染 織	伊砂利彦「スクリヤーピン『焔に向かつて』より」	1点	東京国立近代美術館	「伊砂利彦-型染の美」展
日本画	三橋節子「野草」ほか	6点	三橋節子美術館	「夭折の画家・三橋節子一絵筆に託した35年の足跡」展
陶芸・金工	森野嘉光「緑釉窯変『青・黒・赤』花瓶」ほか	2点	迎賓館京都事務所	京都迎賓館内のしつらえ展示として
日本画	池大雅「草書・芝草詩」ほか	3点	京都新聞社	「京の書-先達の軌跡-」展
陶 芸	森野嘉光「緑釉窯変『青・黒・赤』花瓶」ほか	2点	迎賓館京都事務所	京都迎賓館内のしつらえ展示として
歴 史	「坂本龍馬書簡」	1点	京都国立博物館	「龍馬の翔けた時代」展
人形・郷土玩具	天児ほか	11点	松本市立博物館	「七夕と人形」展
日本画	岩澤重夫「天橋立」	1点	「日本三景展」実行委員会	「日本三景展」
洋 画	黒田重太郎「雪後」	1点	滋賀県立近代美術館、佐倉市立美術館	「没後35年 黒田重太郎展」
日本画	島津徹「水ぬるむ」	1点	京都府府民労働部文化芸術室	庁内展示
陶芸・金工	加藤宗巖「純銀白孔雀香炉」ほか	3点	迎賓館京都事務所	京都迎賓館内のしつらえ展示として
日本画・風俗	原在中「白絵花鳥図屏風」	4点	福島県立博物館	「婚礼・ニッポンプライダル考」展
日本画	「三条西実隆像」	1点	福井県立若狭歴史民俗資料館	「若狭湾と中世の海の道-若狭湾の浦々と日本海流通」展
陶芸・金工	加藤宗巖「純銀白孔雀香炉」ほか	3点	迎賓館京都事務所	京都迎賓館内のしつらえ展示として
日本画	金島桂華「椿」	1点	華鶴美術館	「金島桂華展」
陶芸・金工・漆工	加藤宗巖「純銀白孔雀香炉」ほか	3点	迎賓館京都事務所	京都迎賓館内のしつらえ展示として
陶 芸	青木木米「白磁木瓜形水注」ほか	2点	東京国立博物館	「華麗なる伊万里・雅の京焼」展
歴 史	「坂本龍馬書簡」ほか	2点	靈山歴史館	「龍馬をめぐる人々」展
風俗・民具・人形	根来塗丸盆ほか	24点	茨城県立歴史館	「祭り万華鏡」展
日本画	上村淳之「啼く」	1点	京都市学校歴史博物館	「美術工芸品に観る鳥たち~京都市立学校所蔵の名品と上村淳之」展

洋画	須田国太郎「戸外静物」	1点	京都国立近代美術館ほか	「須田国太郎展」
日本画	金島桂華「大威徳明王」	1点	京都市美術館	「修羅と菩薩のあいだで-もうひとりの人間像」展
日本画	池大雅「柳下童子図屏風」	1点	文化庁	「18世紀京都画壇の革新者たち」展
陶芸・漆工	二代伊東陶山「色絵鳳凰置物」ほか	2点	迎賓館京都事務所	京都迎賓館内のしつらえ展示として
陶芸	五代清水六兵衛「大礼磁唐草文花瓶」	1点	茨城県陶芸美術館	「日本陶芸100年の精華」展
日本画	岸竹堂「源頼朝像」ほか	2点	茨城県立近代美術館	「歴史浪漫-源平の時代を中心に」展
日本画	鶴沢探索「外法の梯子剃り図」ほか	11点	大津市歴史博物館	「大津絵」展
日本画	小野竹喬「曇り日の海」	1点	香雪美術館	「自然を愛した日本画家 小野竹喬-心の風景-」展
陶芸・漆工	五代清水六兵衛「光琳雛置物」ほか	4点	迎賓館京都事務所	京都迎賓館のしつらえ展示として
陶芸	五代清水六兵衛「大礼磁唐草文花瓶」ほか	40点	京都嵯峨芸術大学附属博物館	「清水六兵衛の世界-五代・六代を中心に-」展
				合計 37件 176点

(2) その他

	撮 影		特別観覧		寄託資料一時持ち出し					
					分 野	資 料 名	点 数	申 請 者	使用目的	計
館 資 料	1件	1点	7件		考 古	デンマーク石器コレクション	21点	古代学協会	研 究	1件 21点
管理資料	46件	77点	11件	63点	民 俗	鞍馬火祭り資料	4点	鞍馬火祭保存会	祭 礼	1件 4点

3. 展示活動

3-1 常設展示

(1) 歴史展示

歴史の常設展示は、大きく二つの部分に分けられる。一つは京都の町の歴史の概観的な展示で、平安京以前の京都盆地の姿を示すプロローグに始まり、平安京の誕生から明治・大正までを四つのテーマに分けて展開する。

いま一つは、ある時間的な幅のなかでは位置づけることのできない文化事象から、町衆によって育まれてきた京都文化を代表する四つのテーマを選んで展示する集中展示であり、あわせてそれらが繰り広げられた場としての京都を絵画資料に見るものである。

この歴史の常設展示は、模型や映像・図表を中心に説明的に展開することを原則としているため、実物資料が大変少ない展示となっており、時折不満の声も聞かれた。その欠を補うという意図もあって、2001年度から歴史展示室の北端に展示ケースを新設して、新たに「特別陳列コーナー」を設けた。ここでは、一定のテーマを設定し、ふさわしい資料を主として館蔵資料と寄託資料の中から選んで展示している。

「特別陳列コーナー」の設置に伴い、スペースの都合上、「国際都市京都」のコーナーと「歴史情報サービス」とは廃止した。それ以外の展示は基本的には大きな変化はないので、ここでは展示替えに関するデータのみを記す。概観展示ならびに集中展示の詳細については『京都文化博物館 10年のあゆみ』（1999年）を参照されたい。

① 特別陳列コーナー

◇ 祇園祭

概要：祇園祭の山鉾は、祭りの出し物から発達したもので、立派な人形や懸装品などがあることから、美術品としても鑑賞されている。山鉾に関する模型。郷土玩具・文献などを展示し、祇園祭の一面を明らかにした。

期間：2005年6月14日～8月7日

作品：山鉾模型など13点

担当：大塚活美

◇ 伏見人形

概要：伏見人形は、伏見稲荷大社の門前で売られている土人形の郷土玩具で、江戸時代に伏見稲荷への参拝者が増加するにつれて、土産物として有名になった。粘土を型抜きし、竈で焼いて、泥絵具を付けて作る。各地で作られる土人形にも大きな影響を与えた。

期間：2005年8月9日～11月13日

作品：饅頭食い人形、力士人形、芸者人形など30点

担当：大塚活美

◇ 仮名の世界

概要：日本に仮名が伝わって以来、漢字を仮名のように用いて記述した。9世紀後半くらいから仮名の部分を草書よりも崩して繋げて書くようになり、仮名文字が成立した。役所などが出す公文書は漢字ばかりの文章であったが、和歌や私的な書状などに仮名文字が多く使われた。ここでは、時代による仮名の変化を主眼において、時代ごとに10点程度展示した。

期間：2005年11月15日～12月11日

作品：北白川院陳子自筆消息、僧空寂書状、立花本源氏物語など、計10点

担当：土橋 誠

◇ 煮る・炊く・擂る―出土した炊事・調理器具―

概要：特別展「京の食文化展」の関連展示として、発掘調査で出土したナベ・カマ・擂り鉢など調理の道具類を、京都市内の出土資料を中心に展示した。展示品は縄文時代から江戸時代まで、およそ2500年にわたり、形の変化や種類の消長といった食文化の基本となる調理具の変遷を紹介した。

期間：2005年12月13日～2006年4月16日

作品：平安京跡出土の土器類など、約50点

担当：植山 茂

②展示替え（概観展示・集中展示）

展示テーマ	展示項目	資料名	点数	展示期間
武者の世に	京に集う	茶器一式（出土品）（**）	8点	2003. 6. 17～
京洛四季	京の商い	煙草入屋看板・生掛屋看板・売薬手提箱五合枡・一升枡・糸秤（*）	6点	2004. 10. 19～2005. 4. 17
		看板・暖簾・算盤箱・一斗枡・天秤（*）	5点	2005. 4. 19～2005. 10. 16
		看板（2点）・売薬手提箱・五合枡・一升枡・糸秤（*）	6点	2005. 10. 18～2006. 4. 16
古都飛翔	明治の洋食器	染付草花模様蓋付スープ鉢（幹山伝七作）／染付草花模様皿（2点／四代高橋道八作）／染付草花模様台付盛皿・染付草花模様蓋付水鉢・染付草花模様スープ皿（2点）・染付草花模様台付盛皿（以上、幹山伝七作）（*）	8点	2005. 1. 18～2005. 4. 17
		染付草花模様水差／染付草花模様台付盛皿（以上、幹山伝七作）／染付草花模様紅茶碗／染付草花模様蓋付平鉢（以上、三代清風与平作）／染付葡萄酒呑（和気亀亭作）／染付草花模様皿（四代高橋道八作）（*）	13点	2005. 4. 19～2005. 7. 18
		染付草花模様水差・染付草花模様砂糖入・染付草花模様台付盛皿・染付草花模様小判形皿（以上、幹山伝七作）／染付草花模様蓋付平鉢（三代清風与平作）／染付四季花卉模様肉皿（三代清水六兵衛）（*）	7点	2005. 7. 20～2005. 10. 16
		染付草花模様ソース鉢（和気亀亭作）／染付草花模様小水差・染付草花模様蓋付肉皿・染付草花模様砂糖入・染付草花模様台付盛皿（以上、幹山伝七作）／染付草花模様紅茶碗（三代清風与平作）／染付草花模様皿（四代高橋道八作）（*）	8点	2005. 10. 18～2006. 1. 15
		染付草花模様蓋付スープ鉢・染付草花模様蓋付鉢・染付草花模様台付盛皿（以上、幹山伝七作）／染付四季花卉模様スープ皿（三代清水六兵衛）／染付草花模様蓋付平鉢（三代清風与平作）／染付葡萄酒呑（和気亀亭作）（*）	12点	2006. 1. 17～2006. 4. 16
		集中展示	宗家の地	香道一香炉・香道具・競馬香道具・十種香之記・図書「十種香」（*）
和歌の家一冷泉家七夕色紙・藤原氏系図・角皿（**／*）	3点	2005. 6. 21～2005. 9. 19		
琵琶の家一琵琶・琵琶師範之起・源氏物語絵巻（複製）（**／*）	3点	2005. 9. 21～2005. 12. 18		
蹴鞠の家一蹴鞠（3点）・関係写本（3件）（*／**）	6点	2005. 12. 20～2006. 3. 19		
香道一香炉・香道具・競馬香道具・十種香之記・図書「十種香」（*）	5点	2006. 3. 21～2006. 6. 18		
能と狂言	能と狂言	西王母人物画葛扇・鳳凰文鬘帯・糸巻文鬘帯・花丸文腰帯・呂指道成寺鱗文腰帯（協力：金剛家）	5点	2005. 3. 15～2005. 6. 19
		狂言面一乙・武悪・延命冠者（協力：茂山家）	3点	2005. 6. 21～2005. 9. 19
		菊之凶神扇・鱗文鬘帯・輪違文鬘帯・霞鶯文腰帯・紺地雨龍文腰帯（協力：金剛家）	5点	2005. 9. 21～2005. 12. 18
		狂言面一福の神・神鳴・猿（協力：茂山家）	3点	2005. 12. 20～2006. 3. 19
		桐鳳凰凶唐団扇・花丸凶唐団扇・紺地花橘文鬘帯・柳二松竹梅文鬘帯・鱗文腰帯（協力：金剛家）	5点	2006. 3. 21～2006. 6. 18
匠の世界	匠の世界	仏像（協力：仏光堂）	一式	2005. 2. 22～2005. 9. 19
		造園（協力：花豊造園）	一式	2005. 9. 21～2006. 5. 14
京のまつり	京のまつり	祇園祭月鉾模型、扇（*）	2点	2005. 3. 15～2005. 6. 19
		祇園祭長刀鉾模型（**）	1点	2005. 6. 21～2005. 9. 19
		牛祭 牛祭面（*／**）	10点	2005. 9. 21～2005. 12. 18
		祇園祭月鉾模型（**）	1点	2005. 12. 20～2006. 3. 19
		祇園祭月鉾模型、扇（*）	2点	2006. 3. 21～2006. 6. 18

（ ）内の*印の資料は京都府立総合資料館蔵（京都府京都文化博物館管理）、**印の資料は当館蔵

(2) 美術・工芸展示

◇京都の美術・工芸展 やきもの探偵団、出発！

～子どもがやきものと出会う展覧会～

概要：京都府所蔵品の陶磁器を中心に、やきもの
の製作道具や材料などをまじえて親しみや
すく紹介。

期間：2005年7月23日（土）～8月28日（日）

作品：陶磁器約120点

1) やきものの種類

作品名	作者	制作年	作品名	作者	制作年
朝暾 花瓶	3代 伊東 陶山	1967年	青華花鳥文水指	5代 清水六兵衛	1923年
染付草花模様ソース鉢	和気 亀亭	1879年	古清水錆絵染付瓢形水次		江戸時代
焼締花瓶	5代 清水六兵衛	1916年	土器皿		

2) やきものの歴史

資料名	出土地・作者		資料名	出土地・作者	
<縄文時代>			<室町時代>		
縄文土器（浅鉢、深鉢、壺）	青森県石亀遺跡	(※1)	土釜、瓦器碗、かわらけ、瀬戸小皿	烏丸御池、三条高倉（中京区）	(※1)
<弥生時代>			中国製（青磁碗）	三条高倉（中京区）	(※1)
弥生土器（甕、高杯）	長刀鉾町（下京区）	(※1)	<安土桃山時代>		
<古墳時代>			瀬戸黒茶碗、天目碗	三条高倉（中京区）	(※1)
土師器（甕、高杯、壺、器台）、須恵器（蓋杯）	八幡市内里八丁遺跡	(※1)	志野向付、志野菊皿、織部向付、唐津茶碗	烏丸御池（中京区）	(※1)
朝顔形円筒埴輪	山城町平尾城山古墳	(※1)	黄瀬戸鉢	四条東洞院（下京区）	(※1)
<奈良時代>			<江戸時代>		
土師器（甕、皿）、須恵器（壺、平瓶）	八幡市内里八丁遺跡	(※1)	染付鷺文文皿（鍋島）	烏丸綾小路（下京区）	(※1)
<平安時代（前期）>			染付草花文茶碗、蛸唐草小花入、刷毛目茶碗	三条高倉（中京区）	(※1)
土師器（杯、皿）、須恵器（杯、盤）	平安宮主水司跡	(※1)	焙烙、すり鉢（備前）、羽釜	三条烏丸（中京区）	(※1)
緑釉陶器（碗、耳皿）	西寺跡	(※1)	京風肥前陶器		
灰釉陶器（平瓶、碗）	平安宮主水司跡、西寺跡	(※1)	椿若松絵茶碗		
中国製磁器（白磁碗、青磁灯蓋）	西寺跡、広隆寺	(※1)	猪口向付		
<鎌倉時代>			色絵草花図鉢		
足付き土釜、かわらけ、瓦器碗、こね鉢	五条堀川、烏丸御池、三条烏丸	(※1)	<明治～大正時代>		
中国製磁器（青磁碗、青磁盤）	塩小路新町（下京区）	(※1)	色絵金彩母子図コーヒー碗	錦光山 宗兵衛	明治時代後期
大甕（常滑）	綾小路烏丸（下京区）	(※1)	<昭和・現代>		
			蓋物セット（京都府工芸美術総合研究会試作品）	鈴木 治	昭和30年代

3) やきものの飾りかた

作品名	作者	制作年	作品名	作者	制作年
天龍寺青磁耳付牡丹唐草透し彫花生	初代 加藤 溪山	1955年	いっちゃん兎図角皿	高山 泰造	1952年
金鳳花肉彫白磁花瓶	河合卯之助	1937～38年	色絵夏椿文扁壺	竹中 浩	2001年
芋麻押葉花瓶	河合卯之助	1930年	翔風	宮下 善爾	1996年
陶文<JU TE VEUX>	北村 純子	1985年			

4) 釉薬ってすごい！

作品名	作者	制作年	作品名	作者	制作年
辰砂耳付花瓶	伊東 翠壺	1950年頃	碧彩花瓶	谷口 良三	1977年
白磁花瓶	井上 治男	1971年	方円壺（油滴）	福田力三郎	1977年
碧釉壺	宇野 三吾	1963年	緑釉黒菱花瓶	森野 嘉光	1967年
染錦盒子椿の里	松風 栄一	1982年			

5) 江戸時代のやきもの

資料名

油壺 白粉入 瓦灯(※1) つぼつぼ(※1) ひょうそく(※1) 焼塩壺(※1) 紅皿 蘭引 陶枕

6) 京都のやきもの

作品名	作者	制作年	作品名	作者	制作年
白磁木瓜形水注	青木 木米	江戸時代	色絵金彩唐人図三足香炉	9代 帯山与兵衛	1897年頃
仁清写菊水指	16代 永楽善五郎	1974年	染付草花模様皿	4代 高橋 道八	1879年
染付牛画四方角鉢	永楽 保全	江戸時代	芋頭水指	初代 高橋 道八	江戸時代
乾山写鏤絵染付水注	永楽 和全	江戸時代	色絵紫陽花鉢	仁阿弥道八	江戸時代
楼閣山水絵四方皿	尾形 乾山	江戸時代	鮮紅磁釉紋瓢式花瓶	初代 三浦 竹泉	1879年
金襴手急須	尾形 周平	江戸時代	黒染茶碗	14代 楽吉左衛門	1979年
染付赤壁急須	尾形 周平	江戸時代	赤染茶碗	14代 楽吉左衛門	1974年
赤絵ねじ鉢	奥田 穎川	江戸時代	芦に千鳥文手塩皿		江戸時代
染付草花模様砂糖入	幹山 伝七	1879年	古清水碁盤形水注		江戸時代
染付草花模様小水差	幹山 伝七	1879年	古清水色絵松竹文角皿		江戸時代
染付草花模様スープ鉢	幹山 伝七	1879年	古清水色絵笠形掛花生		江戸時代
染付草花模様台付盛皿	幹山 伝七	1879年	秋草七宝透手鉢		江戸時代
染付草花模様蓋付鉢	幹山 伝七	1879年	舟形向付		江戸時代
色絵母子図三足香炉	7代 錦光山宗兵衛	1897年頃	色絵縞文碗		江戸時代
染付紅茶茶碗	3代 清風 与平	1879年	色絵六角段重		江戸時代

7) やきものを鑑賞しよう

作品名	作者	制作年	作品名	作者	制作年
鉄絵大皿「麦」	石黒 宗麿	1955年	弥生	鈴木 治	1987年
静頤 花瓶	伊東 慶	1977年	犬	高山 泰造	1969年
象嵌壺	奥村 博美	1989年	虎乗り子供	高山 泰造	1972年
遥	河合 誓徳	1988年	鳥地蔵	高山 泰造	1980年
黒地掛分白裂釉壺	木村 盛伸	1992年	筆碗童子	高山 泰造	1975年
雀香合	5代 清水六兵衛	1926年	文殊菩薩	高山 泰造	1977年
青華蝦香合	5代 清水六兵衛	1924年	摩耶夫人	高山 泰造	1971年
青華梅花香合	5代 清水六兵衛	1924年	無題	滝口 和男	1994年
古稀彩花菖蒲花瓶	6代 清水六兵衛	1976年	饒舌な女	坪井明日香	2002年
UNIT-90-D	8代 清水六兵衛	1990年	夜の生産	西川 勝	1995年
彩挺静晷鉢皿	楠部 彌弌	1983年	二人からくり	藤平 伸	1990年
山噴煙染付花瓶	近藤 悠三	1964年	青白磁入れ子蓋物	八木 明	2002年
青磁大鉢	清水 卯一	1974年	オブジェ赤い脱衣	八木 一夫	1977年
ふくろう花瓶	新開 寛山	1991年	塔	山田 光	1964年

8) 京都府立陶工高等技術専門校生の作品（京都府立陶工高等技術専門校所蔵）

作品名	作者	制作年	作品名	作者	制作年
灰釉筒形花生	今西こころ（成形科）	2005年	花鳥紋色絵花器	前野亜希子（図案科）	2005年
御本手スープ碗皿	加藤久美子（成形科）	2005年	鉄線図中皿	古木 友恵（研究科）	2005年
染付色絵花紋飯茶碗	高木 奈緒（図案科）	2005年			

（※1）は京都文化博物館所蔵資料。その他、とくに所蔵表記のないものは、京都府立総合資料館蔵（京都文化博物館管理）資料。

◇京都の美術・工芸展 丹後の風景と物語 《京の百景》

《京の四季》《京の絵本》より

概要：特別展「日本三景展」の開催にちなみ、天橋立を擁する丹後地方の風景や物語を描いた作品を展示。

期間：2005年8月30日（火）～10月16日（日）

作品：日本画33点

分野	作品名	作者名	分類	分野	作品名	作者名	分類
日本画	冠島（おおみずなぎどり）	西内 利夫	京の百景	日本画	経ヶ岬灯台	上野富二郎	京の四季
洋画	冠島	伊東 俊平	京の四季	日本画	丹後松島	国府 克	京の百景
日本画	島に帰る（オオミズナギドリ）	吉村 和起	京の四季	洋画	丹後松島	芝田 耕	京の四季
日本画	舞鶴湾眺望	大河内正夫	京の百景	洋画	丹後の海	田中 岑	京の四季
洋画	雪の貯木場（舞鶴湾）	野村 昭雄	京の四季	日本画	丹後立岩	澤 宏毅	京の百景
日本画	宮津とうろう流し	山本 紅雲	京の百景	日本画	立岩	鹿見 喜陌	京の四季
洋画	宮津の花火	宮村 長	京の四季	洋画	五十河の里（丹後の農家）	門脇 正弘	京の四季
日本画	宮津の燈籠流し	正井 和行	京の四季	日本画	丹後の農家	小嶋 悠司	京の百景
日本画	奈貝海岸	奥村 厚一	京の百景	洋画	夕景（丹後の民家）	森本 勇	京の四季
洋画	西光寺庭園	伊庭新太郎	京の四季	日本画	函石浜砂丘の風	松崎 良太	京の四季
日本画	伊根の舟屋	橋田 二郎	京の百景	日本画	久美浜湾と甲山眺望	樋口 辰志	京の百景
日本画	雪舞う伊根	由里 本出	京の四季	日本画	久美浜湾と甲山	坂根 克介	京の四季
日本画	大敷網	今井 守彦	京の百景	日本画	大江山連峰	佐々木邦彦	京の百景
日本画	千枚田	佐々木 弘	京の百景	日本画	大江山	国府 克	京の四季
日本画	蒲入へ帰る	津田 直樹	京の四季	日本画	安寿と厨子王	堀 泰明	京の絵本
日本画	かまや海岸	堂本阿岐羅	京の百景	日本画	酒吞童子	下村良之介	京の絵本
日本画	経ヶ岬燈台	中路 融人	京の百景				

「京の百景」は京都府立総合資料館蔵（京都文化博物館管理）、「京の四季」、「京の絵本」は京都府蔵。

◇京都の美術・工芸展 京都府所蔵 陶磁器名品展

概要：京都府所蔵の個性あふれる陶芸家30人の作品30点を紹介。

期間：2006年10月21日（金）～11月27日（日）

作品：陶磁器30点

作品名	作者	制作年	寄贈者	作品名	作者	制作年	寄贈者
象嵌彩線壺	今井 政之	1970	京都東ロータリークラブ・ゴルフ同好会寄贈	扁壺「潮音」	森野 泰明	1988	熊倉綾子氏寄贈
錦彩竹林文水指	伊東 翠壺	1970		打坐	熊倉 順吉	1984	
流し釉壺	宇野 三吾	1970		白釉花陶容	七代 清水六兵衛	1990	
緑釉金彩ゴルフ文様花瓶	楠部 彌弼	1960		Far Entrance	林 康夫	1990	
「輪映華」花瓶	西川 實	1971		黒地掛分白裂釉壺	木村 盛伸	1992	
鼓動	鈴木 健司	1973		染付ぶどう花瓶	近藤 潤	1992	
碧青釉新芽文花瓶	小山 喜平	1973		藍釉銀彩龜遊文大鉢	清水 保孝	1992	
「静韻」花瓶	伊東 慶	1977		白磁波紋五角壺	宮川 喜吉	1992	
游	片山 雅美	1975		窯変銀漿天目飾壺	鎌田 幸二	1993	
錦輝花瓶	新開 寛山	1977		三彩藍泐筥	六代 清水六兵衛	1964	
皿<爽>	深見 陶冶	1979	"翔風"	宮下 善爾	1996	清六陶苑寄贈	
山染付金彩壺	近藤 悠三	1984	風を誘う	三代 宮永東山(理吉)	1993		
紫織釉花器	森野 嘉光	1970	包芽Ⅱ	藤野さち子	1996		
五緯連望	藤平 伸	1984	饒舌な女	坪井明日香	2002		
遥	河合 誓徳	1988	白磁面取大壺	竹中 浩	2003		

▽併催 吉村勲 La Mémoire <遺作> 展

主催：京都文化博物館、吉村勲遺作展実行委員会
概要：京都の洋画界に大きな足跡を残し、1993年に逝去した吉村勲氏の遺作を展示。

期間：2006年10月21日（金）～11月27日（日）

作品：洋画46点

◇京都の美術・工芸展 人間国宝 清水卯一展

概要：平成16年度に京都府へ寄贈を受けた清水卯一氏の作品を46点を紹介。

期間：2005年12月1日(木)～2006年2月5日(日)
作品：陶磁器46点

作品名	制作年	作品名	制作年
海鼠釉貼花壺	1940年代後半～50年代前半	蓬萊磁水指	1970年代後半～80年代前半
壺	1958年頃	鉄耀白流扁壺	1989年頃
柿釉壺	1963年	鉄耀白流扁壺	1987年頃
壺	1958年	蓬萊掛分壺「紅梅」	1996年頃
鉄絵彩壺	制作年不詳	蓬萊鉄耀壺	1997年頃
蓬萊風壺	2002年	蓬萊月壺	2001年頃
青磁鉄堆壺	1985年	蓬萊花壺	2002年頃
灰釉壺	1940年代後半～50年代前半	蓬萊掛分壺「春夏秋冬」	1996年頃
鉄耀白流扁壺	1987年	蓬萊赤絵扁壺「大地山河」	1991年頃
黄蓬萊鉄堆点文壺	1981年頃	蓬萊掛分扁壺「雪月花」	1997年頃
墨流し壺	1965年頃	蓬萊掛分扁壺「雪」	1996年頃
黄蓬萊鉄彩壺	1981年頃	蓬萊鉄耀扁壺	1994～6年頃
青磁鉄堆壺	1985年	蓬萊波扁壺	2000年頃
蓬萊獅子吠香炉	2001年頃	蓬萊鉄ノ器	2003年
淡青釉鉄彩壺	1984年頃	蓬萊鉄ノ器	2003年
蓬萊緑彩壺	1991年頃	蓬萊鉄耀水指	1994～6年頃
蓬萊彩掛分風壺	2002年頃	蓬萊赤土彩赤絵銀彩水指	1995年頃
蓬萊赤土彩掛分扁壺「風」	1998年頃	蓬萊掛分茶碗「花」	制作年不詳
蓬萊赤土彩掛分扁壺「柳風」	1998年頃	蓬萊鉄耀白流茶碗	2000年頃
淡青釉壺	1984年頃	蓬萊茶碗	1984年
淡青波壺	1984年頃	萌黄瓷鉄彩茶碗	1970年代後半～80年代前半
壺	1950年代後半	蓬萊鉄耀白流茶碗	2000年頃
蓬萊白流釉壺	1996年頃	蓬萊鉄耀白流茶碗	2001年頃

◇京都の美術・工芸展 池大雅展—四君子の画と書—

概要：京都府蔵池大雅美術館コレクションから、四君子を描いた画と、その画法と関係の深い書を展示。

期間：2005年12月1日(木)～2006年2月5日(日)
作品：日本画他24点

分野	作品名	作者名	制作年	分野	作品名	作者名	制作年
日本画	墨梅図	池大雅	江戸時代後期	日本画	金山	池大雅	享保10年
日本画	恵石図(指墨)	池大雅	江戸時代後期	日本画	獨楽園之記	池大雅	享保19年
日本画	天産奇葩図	池大雅	江戸時代後期	日本画	考工記図解	池大雅	江戸時代後期
日本画	恵石図	池大雅	江戸時代後期	日本画	唐詩細楷	池大雅	江戸時代後期
日本画	風恵図	池大雅	江戸時代後期	日本画	杜甫「江亭」	池大雅	江戸時代後期
日本画	墨蘭図(扇面)	池大雅	江戸時代後期	日本画	王維「和太常韋主簿五郎温泉寓目」	池大雅	江戸時代後期
日本画	墨菊図	池大雅	江戸時代後期	日本画	王昌齡「芙蓉楼送辛漸」	池大雅	江戸時代後期
日本画	墨竹図(対幅)	池大雅	江戸時代後期	日本画	王維「送沈子福之江南」	池大雅	江戸時代後期
日本画	風竹図	池大雅	江戸時代後期	日本画	蘭亭之詩	池大雅	江戸時代後期
日本画	墨竹図	池大雅	江戸時代後期	日本画	般若心經	池大雅	江戸時代後期
日本画	墨竹風恵図	池大雅	江戸時代後期	日本画	巫峡山水図	池大雅	江戸時代後期
日本画	高士訪隠図屏風	池大雅	寛延3年	日本画	和歌「桜」	池大雅	江戸時代後期

◇京都の美術・工芸展 京都府所蔵の 人形 と衣裳

～京の雛めぐり協賛～

概要：京都府所蔵の雛人形や雛道具を中心に、御所人形、衣裳人形などを展覧するとともに、江戸時代から明治時代にかけての女性の衣裳

裳によって京の雛まつりの様子を紹介。
期 間：2006年2月8日（水）～4月2日（日）
作 品：染織28点、人形59点、絵画1点、風俗資料4点

1) 雛のかざり

名 称	制作年代	備 考	名 称	制作年代	備 考
立雛	江戸時代後期	堂本元次氏寄贈	有職雛（衣冠）	江戸時代後期	吉川観方コレクション
立雛	江戸時代後期	吉川観方コレクション	古今雛	江戸時代後期	吉川観方コレクション
立雛	江戸時代後期	吉川観方コレクション	古今雛	江戸時代後期	吉川観方コレクション
立雛	江戸時代後期	吉川観方コレクション	古今雛	江戸時代後期	吉川観方コレクション
元禄雛	江戸時代中期	吉川観方コレクション	古今雛	江戸時代後期	吉川観方コレクション
元禄雛	江戸時代中期	吉川観方コレクション	古今雛	江戸時代後期	吉川観方コレクション
享保雛	江戸時代後期		古今雛	1839年	西村大治郎氏寄贈
次郎左衛門雛	江戸時代中期	吉川観方コレクション	古今雛かざり	1934年	津田喜久子氏寄贈
有職雛（小直衣）	江戸時代後期	吉川観方コレクション	御殿雛かざり	昭和時代初期	伊吹和子氏寄贈
有職雛（直衣）	江戸時代後期	吉川観方コレクション			

2) ちいさき人形への思い

名 称	制作年代	備 考	名 称	制作年代	備 考
御所人形 犬	江戸時代後期	吉川観方コレクション	賀茂人形 大黒	江戸時代後期	吉川観方コレクション
御所人形 びんぶく	江戸時代後期	吉川観方コレクション	賀茂人形 唐子	江戸時代後期	吉川観方コレクション
御所人形 獅子頭持ち	江戸時代後期	堂本元次氏寄贈	賀茂人形 唐子	江戸時代後期	吉川観方コレクション
御所人形 おふく	江戸時代後期	吉川観方コレクション	賀茂人形 福祿寿	江戸時代後期	吉川観方コレクション
御所人形 這子	江戸時代後期	堂本元次氏寄贈	賀茂人形 男	江戸時代後期	吉川観方コレクション
御所人形 宝箱持ち	江戸時代後期	堂本元次氏寄贈	賀茂人形 這子	江戸時代後期	吉川観方コレクション
御所人形 立児	江戸時代後期	堂本元次氏寄贈	賀茂人形 武家夫婦	江戸時代後期	吉川観方コレクション
御所人形 牛持ち	明治時代	伊吹和子氏寄贈	賀茂人形 万歳	江戸時代後期	吉川観方コレクション
御所人形 鳥持ち	明治時代	伊吹和子氏寄贈	賀茂人形 犬乗り翁	江戸時代後期	堂本元次氏寄贈
御所人形 烏帽子かぶり	明治時代	伊吹和子氏寄贈	賀茂人形 童子	江戸時代後期	堂本元次氏寄贈
賀茂人形 鯛持ち童子	江戸時代後期	吉川観方コレクション	賀茂人形 翁	江戸時代後期	堂本元次氏寄贈
賀茂人形 公家	江戸時代後期	吉川観方コレクション	賀茂人形 人形遣い	江戸時代後期	堂本元次氏寄贈
賀茂人形 公家	江戸時代後期	吉川観方コレクション	嵯峨人形 尉と姥	江戸時代後期	吉川観方コレクション
賀茂人形 公家	江戸時代後期	吉川観方コレクション	芥子雛	江戸時代後期	吉川観方コレクション
賀茂人形 童子	江戸時代後期	吉川観方コレクション	一文雛	江戸時代後期	吉川観方コレクション

3) 雛道具

名 称	制作年代	備 考	名 称	制作年代	備 考
おぼこ雛かざり	大正時代	高須春枝氏寄贈	雛台所	大正時代	
雛屏風	明治時代	吉川観方コレクション	雛台所	昭和初期	佐々木泰子氏寄贈
雛屏風	明治時代	吉川観方コレクション	雛道具	1893年	中村貴子氏寄贈 (並川家伝来)
雛屏風	明治時代	吉川観方コレクション	おくどさん	明治時代	吉川観方コレクション
雛台所	大正時代	小松きよ氏寄贈			

4) 晴れの装い

名 称	制作年代	備 考	名 称	制作年代	備 考
縹平絹地花鳥文様小袖	江戸時代後期	吉川観方コレクション	鼠縮緬地蘭菊文様振袖	大正～昭和初期	J.P.Hauchecorne氏寄贈
鼠羽二重地盛花文様振袖	江戸時代後期	吉川観方コレクション	鼠羽二重地雪輪枝垂梅文様振袖	大正～昭和初期	J.P.Hauchecorne氏寄贈
鼠平絹地菜玉扇子文様振袖	江戸時代後期	吉川観方コレクション	上方雛遊び	幕末～明治初期	吉川観方コレクション
鼠縮緬地柵に松楓文様小袖	明治時代	吉川観方コレクション	茶羽二重地几帳に桜楓文様打掛	明治時代	吉川観方コレクション
白縮緬地梅に鶴文様振袖	明治時代	吉川観方コレクション	紫縮緬地源氏物語文様打掛	明治時代	吉川観方コレクション

5) 雛まつりの風情

名 称	制作年代	備 考	名 称	制作年代	備 考
古今雛	明治 38 年	伊吹和子氏寄贈	鼠平絹地花束文様振袖	江戸時代後期	吉川観方コレクション
犬笠	江戸時代後期	江馬務コレクション	紫縮緬地幔幕に桜文様小袖	江戸時代後期	
貝桶	江戸時代後期	江馬務コレクション	薄紅縮緬地春草花文様振袖	明治時代	吉川観方コレクション
立雛凶重箱	幕末~明治初期		納戸平絹地水辺鶯桜文様振袖	江戸時代後期	吉川観方コレクション
草餅、ひちぎり	現代	模造品	染分縷子地雲取前裁草花文様振袖	江戸時代後期	
薄紅縮緬地梅に鶯文様振袖	明治時代				

6) 子どもの衣裳

名 称	制作年代	備 考	名 称	制作年代	備 考
縹縮緬地梅菊御簾貝桶文様振袖	江戸時代後期	吉川観方コレクション	白縷子地震取秋草文様振袖	明治時代	吉川観方コレクション
鼠平絹地掛盆栽文様振袖	江戸時代後期	吉川観方コレクション	縹縮緬地公家遊山文様振袖	明治時代	吉川観方コレクション
黒羽二重地松竹鶴亀文様産着	江戸時代後期	吉川観方コレクション	鼠平絹地枝垂梅文様振袖	明治時代	吉川観方コレクション
白羽二重地松竹鶴亀文様産着	江戸時代後期	吉川観方コレクション	茶縮緬地葵丸文様振袖	明治時代	吉川観方コレクション
鼠木綿地子ども雪だるま文様振袖	明治時代	吉川観方コレクション	ささげ	明治時代	吉川観方コレクション

(3) 別館展示

別館6室の展示は昨年度をもって終了した。別館は従来の常設展示および限定的な催事利用から、更なる利用促進を図る意味で、展示室のうち3室をショップに、残る3室を催事用控室および機材置場として利用することとし、中央のホールを中心とした多角的で活発な利活用を目指して、2005年5月リニューアルオープンした。

・清水九兵衛「朱装」

・はぎとり土層

b. 別館

・礎石

・礎盤

② 階

・梅原龍三郎「富士山の図」

③ 7 階

・甕

(4) その他館内展示物

① 1 階

a. 本館

・「紫式部像」

※詳細については『京都文化博物館 10 年のあゆみ』（1999 年）を参照されたい。

3-2 特別展示

(1) 自主企画展

◇千總コレクション 京の優雅 ～小袖と屏風～

会 期：2005年6月4日（土）～7月18日（月・祝） 開館39日間

休館日：7月18日を除く月曜日

会 場：4階特別展示室・3階美術工芸展示室

入場料：一般1,100円 大高生800円 中小生500円

主 催：京都府、京都文化博物館、毎日新聞社

後 援：京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都商工会議所、京都府観光連盟、京都市観光協会、平安建都1200年記念協会、歴史街道推進協議会、NHK京都放送局

特別協力：株式会社千總

担当者：藤本恵子

概 要：本展は、京友禅の老舗・株式会社千總が、今年創業450年を迎えるにあたり、コレクションの全容を初めて明らかにするものであった。華麗な小袖や大画面が魅力の屏風類をとおして、またそれらを製品づくりに活用した千總の、「伝統を活かし新たな創造に繋げていく」京都の町衆の意気込みを目近にすることによって、多くの鑑賞者が京都文化の底力を実感することができた。

また、展覧会の成果としては、祇園祭の山鉾町にほど近く、かつては町衆のにぎわいを見せた地域にある京都文化博物館にとって、京都の特質を実感することの出来る好機となった。鑑賞者は、染織関連業者、美術系大学はもとより、外国からの研究者や旅行者も目立ち、講演会および展示解説も盛況であった。



2005年6月18日 「京の優雅～小袖と屏風～
千總コレクション」会場内
ギャラリートーク風景（4階特別展示室）

展覧会の構成と主な作品：

第1章 近代の千總—新機軸の友禅染

【明治期型友禅】縮緬地孔雀に花文様型

友禅染裂（岸竹堂下絵）明治7年

縮緬地干綱千鳥に松文様型友禅染裂（今尾景年下絵）明治6年

コラム1 本画の制作と染織下絵

コラム2 博覧会への参画と千總の近代化

第2章 小袖コレクション—近世から近代の友禅染・刺繍の技と美

【小袖】白緋子地琴枝垂柳桜文様小袖（江戸時代前期）

紅縮緬地流水に花筏文様打掛（江戸時代後期）

第3章 屏風コレクション—近世・近代京都画壇の精華

【屏風】重要文化財 円山応挙「保津川図」（寛政7年）

岸竹堂「大津唐崎図」（明治9年）フィラデルフィア万博出品

など美術作品と下絵、図案等資料類をあわせて総計203点。

入場者：41,295人（内、有料入場者数18,608人 有料入場率45%）1日平均1,059人

講演会：日時 6月12日（日）午後2時～3時30分
講師 切畑 健氏（大手前大学教授・本展監修者）

演題 「京の優雅—老舗の美意識」

場所 別館ホール

参加人数 200人

ギャラリートーク：日時 6月18日（土）午後2時～3時30分

7月2日（土）午後2時～3時30分

解説 藤本恵子・野口剛（本展担当者）

参加人数 各日とも約85人

夜間開館：「京の優雅～小袖と屏風～」展開催中の7月14日（木）から16日（土）までの3日間、常設展及び特別展の開館時間をいずれも午後8時30分まで延長した。これは、祇園祭宵山の期間中であったこと、そして別館リニューアル記念事業の一環であるミュージアムコンサートの開催にあわせた措置であった。

常設展では午後7時以降の入館者が3日間で計114人、特別展は午後5時30分以

降の入館者が計242人であった。

◇京の食文化展～京料理・京野菜の歴史と魅力～

会 期：2006年3月11日～4月16日（32日間）

休館日：月曜日

入場料：一般1,000円 大高生700円 中小生400円

主 催：京都府・京都文化博物館・京都新聞社・NHK京都放送局、(財)平安建都1200年協会

後 援：京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都商工会議所、(社)京都府観光連盟、歴史街道推進協議会、KBS京都、エフエム京都、近畿農政局、(社)京のふるさと産品価格流通安定協会、京の田舎ぐらし・ふるさとセンター、京都料理組合、京都府食品産業協議会

担当者：大塚活美・土橋 誠

概 要：京都の伝統的な食文化は、平安京以来の1200年の歴史と、海から離れた内陸の盆地という環境の中で生まれ、日本の食文化の基礎を形作っている。健康にも良いと言

われる魅力に満ちた京の食のすべてを、歴史的・民俗的な観点から展示した。また、ろうじ店舗では、江戸時代のお雑煮や、豆腐料理も再現され、賞味できるようにし、展覧会で見て、実際に食べられるように企画した。展示は、京料理に関するもの、食材に関するもの、伝統食・行事食に関するものの3部構成とし、美術工芸品、歴史資料、民具などの資料を92点展示した。その中には、資料を視覚化した模型も含まれる。資料を補足するものとして、ビデオを自主制作し、会場内で流した。会期中の3月28日には一部の展示替えを行った。

展覧会の構成と主な作品：

第1部 京料理

栗権神饌（復元模型）

瑞饋神饌（子ども神饌）

類聚雑要抄指図

国宝明月記 ほか

第2部 食材

たはらかさね耕作絵巻

四季耕作図屏風（渡辺始興画）

京野菜（模型） ほか

第3部 行事食・伝統食

日次紀事第一

年中行事書

是久日記（梅辻家文書） ほか

入場者：20,006人（一日平均625人）

講演会：3月18日（土） 聴講110名

熊倉功夫 林原美術館館長

「京料理1200年の歴史」

4月1日（土） 聴講103名

久保 功 野菜文化史研究者

「歴史と文化で見せます京野菜」

ギャラリートーク：

3月22日（水） 13時30分～14時30分

竹下悦子

（御食国若狭おばま食文化館学芸員）

3月15日（水） 13時半～14時30分

大塚活美（当館学芸員）

3月29日（水） 13時半～14時30分

土橋 誠（当館学芸員）

特別観賞会：3月10日（金） 14時から 206名

友の会講座：

3月23日（木） 11時から 30名



2006年3月15日「京の食文化展」会場会場内
ギャラリートーク風景（大塚学芸員／4階特別展示室）



2006年4月2日 生間流式包丁実演
（小西将清氏／別館ホール）

その他の催事：

生間流式庖丁の実演「神敵の鯉」 300名

会 場：別館ホール

4月2日(日)：1回目 11時～

2回目 13時30分～

(2) 共催展等

◇人体の不思議展

会 期：2005年4月2日～5月22日（45日間）

休館日：月曜日（5月2日〔月〕は開館）

入場料：一般：1,400円、大高生700円、中小生400円

主 催：人体の不思議展実行委員会、京都文化博物館、京都新聞社、日本アナトミー研究所

後 援：日本赤十字社、日本医学会、日本医師会、日本歯科医師会、日本看護協会、京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都府歯科医師会、京都府看護協会、平安建都1200年記念協会、NHK京都放送局、KBS京都、エフエム京都

総合企画・運営：(株)マクロース

会 場：4階特別展示室、3階美術工芸展示室

担当者：森脇清隆

概 要：身近でありながら意外に知られていない「自分自身のからだのメカニズムと働き」を、最新科学技術により開発された人体標本「プラストミック」によって具体的に解き明かそうとする展覧会。全身標本はじめ、人体各部の標本約170点を展示。また、京都での開催にあたり『京都の医学史展』を3階展示室で併催した。入場者数は211,409名、1日あたりの入場者数12,636名と、当館での特別展の最高人数を記録した。

入場者：211,409人（1日平均4,698人）

併 催：『京都の医学史展』

平安時代以来、医学の中心地であった京都における伝統医学から近代医学への歩みを展望。学術的な側面から人体構造の把握が歴史的にどのように行われてきたのかを絵画、書跡、典籍、工芸等35点の資料で紹介。

臨時開館：「人体の不思議展」開催中の5月2日（月）は通常休館日であるが、本展は非常に多くの来館者があり、5月の連休中の唯一の平日であったため臨時開館した。当日のみの

入館者数は4845人が来館された。常設展のみの入場者は26人であった。

◇無言館 遺された絵画展

～戦後60年 いのちの証～

会 期：2005年7月30日～8月28日（26日間）

休館日：毎週月曜日

会 場：4階特別展示室

入場料：一般1,000円 大高生700円 中小生400円

主 催：京都文化博物館・戦没画学生慰霊美術館「無言館」、NHK京都放送局、NHK きんきメディアプラン

後 援：京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都商工会議所、京都府観光連盟、京都市観光協会、平安建都1200年記念協会、歴史街道推進協議会、KBS京都、エフエム京都

担当者：長舟洋司

概 要：戦後60年の節目の年に、戦没が学生慰霊美術館「無言館」の所蔵品を出品し、作品に宿る魂との対話を通じて、人の命のかけがえなさ、家族や人の絆の大切さに思いを巡らせる機会とする。

作 品：58名の日本画、洋画、彫刻137点

入場者：32,075人（1日平均1,234人）

講演会：別館ホール

11月19日「無言館のこと一生と死の画家たち」窪島誠一郎氏（無言館館主）

◇松島・天橋立・厳島 日本三景展

会 期：2005年9月13日～10月16日（34日間）

休館日：月曜日

入場料：一般1,000円 大高生700円 中小生400円

特別鑑賞日：9月12日

主 催：京都文化博物館、「日本三景展」実行委員会
企画協力：京都新聞社、京都府立丹後郷土資料館
特別協力：瑞巖寺、鹽竈神社、籠神社、智恩寺、成相寺、厳島神社

後 援：京都府、京都市、宮津市、京都府教育委員

会、京都市教育委員会、宮津市教育委員会、京都商工会議所、京都府観光連盟、京都市観光協会、天橋立観光協会、日本三景観光連絡協議会、歴史街道推進協議会、NHK京都放送局、KBS京都、エフエム京都

展示協力：天橋立名松リバース実行委員会、宮津美しさ探検隊

協力：東海道旅客鉄道株式会社、北近畿タンゴ鉄道株式会社

助成：地域創造

担当者：野口 剛

概要：中世の絵巻から近世の名所風俗図屏風、京都御所の襖絵、写生・真景図、浮世絵版画、近現代の日本画まで、日本三景に関わる絵画作品を一堂に会し、日本三景に注がれてきた人々のまなざしを見つめ直すとともに、今日的な魅力創造の糸口を探る。

作品：海部氏系図（国宝）・平家納経（国宝）・慕婦絵（重要文化財）・成相寺参詣曼荼羅（京都府指定文化財）・厳島八景図／長澤蘆雪（重要文化財）・青宵／東山魁夷など約100点。

入場者：10,720人（1日平均357人）

シンポジウム：別館ホール

9月23日「日本三景の過去・現在・未来」
島尾 新氏（多摩美術大学教授）長谷川成一氏（弘前大学教授）、堀野宗俊氏（瑞巖寺宝物館学芸員）、伊藤 太氏（京都府立山城郷土資料館技師）、知念 理氏（広島県立美術館学芸員）

◇偉大なるシルクロードの遺産展

～中央アジア オアシス国家の輝き～

会期：平成17年10月29日～12月4日(32日間)

休館日：月曜日

入場料：一般1,000円 大高生700円 中小生400円

主催：京都文化博物館、京都新聞社

後援：外務省、文化庁、ウズベキスタン共和国文化・スポーツ省、在日ウズベキスタン共和国大使館、ウズベキスタン共和国芸術アカデミー、タジキスタン共和国科学アカデミー、京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都商工会議所、(社)京都府観光連盟、京都市観光協会、平安建都1200年記念協会、歴史街道推進協議会、

NHK京都放送局、KBS京都、エフエム京都
協力/ウズベキスタン国営航空

企画協力/株式会社キュレイターズ

担当者：鈴木忠司

概要：中央アジアの広大な砂漠地帯に点在する緑豊かなオアシス。古来この地は砂漠を旅する幾万もの人々を迎え入れ、オアシス都市として栄えてきた。ユーラシア大陸の統一を目指したアレキサンダー大王。仏典を求め遙かなるインドへの道を行く玄奘三蔵。中国とローマを結ぶ交易の道シルクロードを開いた商人たち。彼らがたどった道をつなぐ水に恵まれ、緑を茂らせたオアシスは、こうしてさまざまな東西の文明が行き交う要衝となった。

オアシス都市を中心に独自の文明を発展させた中央アジアは、日本人にとっていまだ未知なる国である。この展覧会ではシルクロードの中核地帯、ウズベキスタン・タジキスタンを中心に、紀元前から近代に至るまでの壮大な文明の足跡を、日本で初めて紹介するものである。



2005年11月 「偉大なるシルクロードの遺産展」会場風景
(4階特別展示室)

作品：タフティー・サンギーン遺跡出土のアキナケス型剣（鞘）、グリフィン型剣柄 ダルベルジンテパ寺院出土の仏像、人物像、ペンジケントの貴族の館の壁画 ソグド人遺跡の銅銭 イスラム様式の金工品・陶器 ウズベキスタン、タジキスタンの民族衣装 宝飾品など378件。

入場者：17,987人（1日平均562人）

講演会：3F映像ホール）10時30分～12時

11月5日（土）「シルクロード東伝の文化」

樋口 隆康氏（泉屋博古館館長）

ギャラリートーク：

11月12日（土） 13時30分～14時30分
柴田広志（京都府立大学）

11月19日（土） 13時30分～14時30分
西林孝浩（立命館大学講師）

◇柳宗悦の民藝と巨匠たち展

会 期：2005年12月17日～2006年1月29日
（32日間）

休館日：月曜日、12月28日～1月3日

入場料：一般1,000円 大高生700円 中小生400円

特別鑑賞日：12月16日

主 催：京都府、京都文化博物館、読売新聞大阪本社、美術館連絡協議会

後 援：京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都商工会所、京都府観光連盟、京都市観光協会、歴史街道推進協議会、NHK京都放送局、KBS京都、エフエム京都

担当者：洲鎌佐智子

概 要：「民藝運動」の創始者としてその名を知られた柳宗悦（1889～1961）の蒐集した各地の民藝品、そして民藝運動にかかわった巨匠たちの作品を紹介することにより、柳宗悦の美意識を探るとともに、近代日本美術史上に一つのジャンルを築いた「民藝」の意味を再考しようというもの。



2005年12月 「柳宗悦の民藝と巨匠たち展」会場風景
（4階特別展示室）

作 品：李朝白磁大壺、日本民藝美術館設立趣意書、木喰上人「千手千眼観音像」、富本憲吉「色絵更紗紋飾壺」、バーナード・リーチ「鉄絵鹿文花瓶」、濱田庄司「柿釉丸紋鉢」など約180点

入場者：20,095人（1日平均628人）

講演会：別館ホール

1月14日「柳宗悦の仕事とその根本思想」
尾久 彰三氏（日本民藝館学芸員）

映画上映：3F映像ホール（13時～/15時～）

1月21日「兼子-Kaneko」＜2004年/80分/カラー＞アルト歌手・柳兼子（宗悦夫人）のドキュメンタリー

1月22日「彫る 棟方志巧の世界」
＜1975年/39分/カラー＞

イベント：きょうと文博骨董まつり 別館ホール
1月8日、9日 10時～18時

◇京都府美術工芸新鋭選抜展～2006新しい波～

会 期：2006年2月11日～2月26日（14日間）
休館日：月曜日

入場料：大人700円 大高生500円 中小生400円

主 催：京都府・京都文化博物館

後 援：京都新聞社・朝日新聞京都総局・毎日新聞京都支局・読売新聞大阪本社・産経新聞社・日本経済新聞社・NHK京都放送局・KBS京都・エフエム京都・京都商工会議所・平安建都1200年記念協会

担当者：長舟洋司・藤本恵子

概 要：京都で活躍している新進作家の作品を広く紹介し、その育成を図るとともに、京都の美術工芸の振興を図る。

作 品：最優秀賞：〔美術部門〕吉本直子「白の棺」（ミクスト・メディア）〔工芸部門〕上田順平「パンノウ・オキモノ」（陶芸）

購入作品：馬場晋作「shine」（洋画）、田上真也「滲・壳」（human shell）など63作家、63点

入場者：5,271人（1日平均377人）



2006年2月 「京都府美術工芸新鋭選抜展」審査風景

戦後60年 いのちの証

無言館 遺された絵画展

「あじ五分 あじ十の絵を描かせてくれ...
小生は生きて帰らねばなりません。絵をかかすために。」

平成17年
7月30日(土)～8月28日(日)
午前10時～午後6時(入場は5時30分まで)
休館日/月曜日

入場料 一般1000円(800円)、大高生700円(500円)、中学生400円(300円)
*1歳未満は無料(1歳以上10歳未満)

京都文化博物館
TEL 075-222-0888 FAX 075-222-0889
http://www.kyoculturalmuseum.jp

「無言館 遺された絵画展」ちらし

偉大なるシルクロードの遺産展

中央アジア オアシス国家の輝き
アレキサンダー大王、チンポスハンそしてティムール王が駆け抜けたユーラシアの大地

ウズベキスタン、
タジキスタンの至宝
日本初の本格的公開

平成17年
10月29日(土)～12月4日(日)
午前10時～午後6時(入場は5時30分まで)
休館日/月曜日

入場料 一般1000円(800円)、大高生700円(500円)、中学生400円(300円)
*1歳未満は無料(1歳以上10歳未満)

京都文化博物館
TEL 075-222-0888 FAX 075-222-0889
http://www.kyoculturalmuseum.jp

「偉大なるシルクロードの遺産展」ちらし

日本三景展

松島・天橋立・厳島

中世の絵巻から
近現代の日本画まで、
「日本三景」の絵巻を
一堂に
アート・トラベル!

平成17年 9月13日(火)～10月16日(日)
開館時間 午前10時～午後6時(入場は5時30分まで)
入場料 一般1000円(800円)、大高生600円(400円)、中学生400円(300円)
*1歳未満は無料(1歳以上10歳未満)

京都文化博物館
TEL 075-222-0888 FAX 075-222-0889
http://www.kyoculturalmuseum.jp

「日本三景展」ちらし

柳宗悦の民藝と巨匠たち展

柳宗悦の心と眼
木喰仏

朝鮮陶磁
河井寛次郎
濱田庄司
PARADE
産沢銀介
柳方三功

平成17年12月17日(土)～平成18年1月29日(日)
開館時間 午前10時～午後6時(入場は5時30分まで)
入場料 一般1000円(800円)、大高生700円(500円)、中学生400円(300円)
*1歳未満は無料(1歳以上10歳未満)

京都文化博物館
TEL 075-222-0888 FAX 075-222-0889
http://www.kyoculturalmuseum.jp

「柳宗悦の民藝と巨匠たち展」ちらし

2005（平成17）年度特別展一覧

展覧会名	会期	日数	入場者数	一日平均	形態
人体の不思議展	2005. 4.02～ 5.22	44	211,409	4,805	共催展
千總コレクション 京の優雅～小袖と屏風～	2005. 6.04～ 7.18	39	41,295	1,059	自主企画
無言館 遺された絵画展～戦後60年 いのちの証～	2005. 7.30～ 8.28	26	30,275	1,234	共催展
松島・天橋立・厳島 日本三景展～名所と美術～	2005. 9.13～ 10.16	30	10,720	357	共催展
偉大なるシルクロードの遺産展～中央アジア オアシス 国家の輝き～	2005.10.29～ 12.04	32	17,874	559	共催展
柳宗悦の民藝と巨匠たち展	2005.12.17～ 2006.1.29	32	20,095	627	共催展
京都府美術工芸新鋭選抜展～2006 新しい波～	2006. 2.11～ 2.26	14	5,271	376	共催展
京の食文化展～京料理・京野菜の歴史と魅力～	2006. 3.11～ 4.16	32	20,120	628	自主企画
計 7件		249	357,059	1,434	

(3) 館外共催事業

◇京都府立総合資料館収蔵展示室 公開

春の公開

会場：3階収蔵展示室

会期：2005年5月18日～20日（3日間）

入場者数：125人

秋の公開

会場：3階収蔵展示室

会期：2005年10月19日～21日（3日間）

入場者数：107人

特別公開

会場：3階収蔵展示室

会期：2006年1月25日（1日間）

入場者数：80人（京都市立山ノ内小学校）

(4) 京都府民ギャラリー事業への協力

京都府では、府民が身近に「文化・芸術の町」を体験できる空間を創出するために、府民ギャラリー事業を実施している。本事業は、京都府が所蔵する美術工芸品のうち、「京の四季」や「京の絵本原画」等から

テーマを定めて構成した作品群を、府内の文化施設で展示するもので、当館は(1)展示会場となる文化施設の事前調査、(2)展示作品の選定、(3)会場での展示指導などに協力している。

主催者	期間	開催場所	展示内容
京都府	2005. 4.15～ 6.9	京都府庁	「京の四季」から
京都府	2005. 6.10～ 9.28	京都府庁	「京の四季」から
京都府	2005. 9.29～ 12.21	京都府庁	「京の四季」から
京都府	2005.12.22～ 2006. 3.31	京都府庁	「京の四季」から

3-3 映画

(1) 常設上映

2005（平成 17）年度 3F 映像ホール映画上映

上映期間	テ ー マ	作 品 名	日数	回数	鑑賞者
2005. 3.31～ 5. 1	自由という地平 —戦後の独立プロダクション作品集	霧進／海に生きる／蜂の巣の子供たち／煙突の見える場所／蟹工船／足摺岬／世界は恐怖する／裸の島／松川事件／おとし穴／彼女と彼	20	40	2,297
2005. 5. 5～ 5.29	明治文学と映画	金色夜叉／樋口一葉／にごりえ／縮図／夜明け前／こころ／たけくらべ／白鷺	16	32	2,892
2005. 6. 2～ 6.26	ホームドラマ傑作集 —戦後編	安城家の舞踏会／花咲く家族／破れ太鼓／お茶漬の味／この広い空のどこかに／山の音／早春／陽のあたる坂道	16	30	2,788
2005. 6.30～ 7. 3	映像の新しい地平 —日本におけるドイツ年特別上映	シュルツェ、ブルースへの旅立ち／ガン・シャイ／ヒランクル／クレイジー	4	8	535
2005. 7. 7～ 7.31	映画にみる京 —描かれた町衆の文化と生活	西陣の姉妹／西陣／京舞・四世 井上八千代／祇園小唄 絵日傘 舞ひの袖／祇園小唄 絵日傘 狸大尽／祇園祭／噂の女／夜の河／古都／序の舞	16	32	2,776
2005. 8. 4～ 8.14	「無言館 遺された絵画展」記念映画上映	きけわだつみの声—日本戦没学生の手記—／ひめゆりの塔	8	16	1,727
2005. 8.18～ 8.28	戦後 60 年記念企画 —映画に見る戦争とその傷跡	ハワイ・マレー沖海戦／加藤隼戦闘隊／ビルマの豎琴／私は貝になりたい	8	16	1,841
2005. 9. 1～ 10. 2	映画監督・稲垣浩の世界	諸諺〈ナンセンス〉三浪士／瞼の母／闇の影法師／出世太閤記／宮本武蔵 一乗寺決闘／独眼龍政宗／無法松の一生／手をつなぐ子等／忘れられた子等／稲妻草紙	20	40	1,979
2005.10. 6～ 10.30	「きものの似合うまち・京都」推進事業協賛企画 映画の中のきもの一女優の和装美	歌麿をめぐる五人の女／細雪／おとうと／ぼんち／湖の琴／緋牡丹博徒 お竜参上	12	24	1,953
2005.10.20～ 10.23	【上方ルネッサンス 2005 楽劇の祭典協賛企画】 古典芸能への挑戦 —映画監督・内田吐夢	妖刀物語 花の吉原百人斬り／恋や恋なすな恋	4	8	448
2005.11. 3～ 11.20	【第 4 回新京極映画祭協賛企画】 映画と音の良い関係	マダムと女房／素晴らしき日曜日／青い山脈／続青い山脈／生きる／喜びも悲しみも幾歳月／初春 狸御殿	12	22	1,337
2005.11.24～ 11.27	文化庁芸術祭・優秀映画鑑賞会	喜びも悲しみも幾歳月／にあんちゃん／反逆児／人間／宮本武蔵 巖流島の決闘／日本のいちばん長い日／どですかでん／いのちぼうにふろう／沈黙	4	9	933
2005.12. 1～ 12.25	お笑いだけが大阪やない！ —根性・人情・心意気	浪花の恋の物語／王将／夫婦善哉／悪名／夜の女たち／大阪の宿／お父さんはお人好し／泥の河	16	32	1,654
2006. 1. 5～ 1.29	没後 80 年 —尾上松之助と監督たち	忠臣蔵／弥次喜多 善光寺詣り／渋川伴五郎／忠臣蔵／尾上松之助葬儀／水戸黄門漫遊記／実録忠臣蔵／清水次郎長（義侠篇・血苦笑篇・髑髏篇）／忠臣蔵（天の巻・地の巻）／富士に立つ影	14	28	949
2006. 1.21～ 1.22	柳宋悦の民藝と巨匠たち展記念 上映	兼子— Kaneko ／彫る 棟方志功の世界	2	4	393
2006. 2. 2～ 2.26	社会派映画監督・山本薩夫特集	太陽のない街／浮草日記／荷車の歌／人間の壁／乳房を抱く娘たち／傷だらけの山河／にっぽん泥棒物語／証人の椅子	16	32	1,934
2006. 3. 2～ 3.19	日本映画監督協会創立 70 周年記念 「監督協会創立メンバーの 11 本＋1」	映画監督って何だ！／無法松の一生／雨月物語／血槍富士／樋口一葉／人情紙風船／赤西蛸太／王将／昨日消えた男／西鶴一代女／狂った一頁／十字路	12	23	1,271
2006. 3.23～ 3.31	甦る日本映画 —9.5mm フィルムからの復元 映画特集	右門捕物帖 三番手柄／国士無双／槍供養／祇園小唄 絵日傘 狸大尽／雲母阪／天国その日帰り	6	12	234

(2) 特別上映・共催事業

◇「映像の新しい地平」日本におけるドイツ年特別上映

共 催：京都ドイツ文化センター
会 場：3階映像ホール
内 容：『シュルツェ、ブルースへの旅立ち』（2003）
等4作品の上映
期 間：2005年6月30日～7月3日
鑑賞者数：535人

◇日本映像学会関西支部 第27回夏期ゼミナール 2005年

「アウトサイダーの世界」
共 催：日本映像学会関西支部
会 場：京都府立ゼミナールハウス
内 容：『893愚連隊』（1966）等9作品の上映とシンポジウム
期 間：8月6日～8日
参加者数：86人

◇上方ルネッサンス2005 楽劇の祭典 協賛上映

古典芸能への挑戦—映画監督・内田吐夢
共 催：関西楽劇フェスティバル協議会
会 場：3階映像ホール
内 容：『花の吉原百人斬り』（1960）等2作品の上映
期 間：10月20日～23日
鑑賞者数：448人

◇「きもの似合うまち・京都」推進事業協賛企画 「映画の中のきもの—女優の和装美」

協 力：京都府染織・工芸室、和装振興財団
会 場：3階映像ホール
内 容：『歌麿をめぐる五人の女』（1946）等6作品の上映と資料展示
期 間：10月6日～30日
鑑賞者数：1,953人

◇第4回新京極映画祭連携企画

「映画と音の良い関係」
協 力：新京極商店街振興組合
会 場：3階映像ホール
内 容：『マダムと女房』（1931）等6作品の上映
期 間：11月3日～20日
鑑賞者数：1,337人

◇第60回文化庁芸術祭—日本映画名作鑑賞会— 「日本映画の巨匠達」

共 催：文化庁、映画製作者連盟
会 場：3階映像ホール
内 容：『喜びも悲しみも幾歳月』（1957）等9作品の上映
期 間：11月24日～27日
鑑賞者数：993人

◇「柳宗悦の民藝と巨匠たち」展記念上映

会 場：3階映像ホール
内 容：『兼子-Kaneko』（2004）等2作品の上映
期 間：2006年1月21日、22日
鑑賞者数：393人

◇日本映画監督協会設立70周年記念企画

「監督協会設立メンバーの11本+1」
共 催：日本映画監督協会、日本映画製作者連盟
会 場：3階映像ホール
内 容：『映画監督って何だ！』（2006）等12作品の上映、映画監督による講演
期 間：3月2日～18日
鑑賞者数：1,271人

◇映画フィルムの復元

1999年度から実施していた京都府所蔵フィルムの検査・洗浄事業は2003年度をもって終了、継続事業として2004（平成16）年度から「映画フィルム復元事業」を実施した。2004年度は『祇園小唄 絵日傘狸大尽』を、そして2005（平成17）年度には『槍供養』9.5mmフィルムのデジタル復元を行った。

作品名：『槍供養』
制作会社等：1927（昭和2）年日活京都作品（モノクロ・サイレント・ダイジェスト版・約15分）
協 力：IMAGICA ウェスト、ヨコシネ・ディ・アイ・エー
一般公開：2006年3月24日（金）、26日（日）
3階映像ホール 復元作品上映と解説

会 場：京都文化博物館 3階映像ホール
鑑賞者：103名
インターネット配信：2006年3月から京都府文化芸術室のホームページより動画配信を開始。

(3) 映像ギャラリー常設展示

京都府所蔵の映画関連資料より、明治から昭和初期の映画カメラ・映写機、伊藤大輔文庫、大映京都撮影所関連資料を展示している。また所蔵の映画作品から73作品をダイジェストして収録し、検索システムとして公開している。詳細については、『京都文化博物

館10年のあゆみ』（1999年）を参照されたい。なお、映像ホールでの企画上映にあわせて、ポスター・スチル・チラシ等50点前後の資料を随時展示替えしながら公開している。2005年度は下記のテーマで展示した。

2005（平成17）年度3Fギャラリー展示

期 間	テ ー マ
2005.04.11～05.31	近代映画協会作品の特集展示
2005.06.01～07.03	ホームドラマ傑作集—戦後編、映像の新しい地平—「日本におけるドイツ年」
2005.07.05～07.31	映画にみる京—描かれた町衆の文化と生活
2005.08.02～08.30	戦後60年 企画—映画に見る戦争とその傷跡
2005.08.31～10.02	映画監督・稲垣浩の世界
2005.10.04～10.30	映画の中のきもの—女優の和装美、古典芸能への挑戦—映画監督・内田吐夢
2005.11.01～11.29	文化庁芸術祭・日本映画名作鑑賞会—日本映画の巨匠たち、映画と音の良い関係
2005.11.30～12.25	お笑いだけが大阪やない！—根性・人情・心意気
2005.12.27～2006.01.31	没後80年—尾上松之助と監督たち
2006.02.01～02.26	社会派映画監督・山本薩夫特集
2006.02.28～03.30	日本映画監督協会創立70周年記念「監督協会創立メンバーの11本+1本」

(4) 映画関係資料の整理

当館では映画関係資料を多く所蔵しており、開館当初から順次整理作業を進めている。資料は映画関連書籍・雑誌、シナリオ、宣伝スティール写真、プライベート写真、スナップ写真、手紙、メモ等から構成さ

れるが、「伊藤大輔文庫」「大映京都撮影所寄贈資料」はこのうちの中核をなすものである。現在はこれらを中心に、整理、解説作りを行なっている。

(5) 京都府映像文化センター運営委員

氏 名	所 属 等	氏 名	所 属 等
坂上 順	東映京都撮影所長	森田富士郎	映画撮影監督
実方 司郎	京都興行協会常任理事	下田 元美	京都府文化芸術室長
多田道太郎	京都大学名誉教授	荒巻 禎一	内部委員
中島 貞夫	映画監督	安井 恒夫	内部委員
中村 努	シナリオライター	青木 完一	内部委員
羽生 清	京都造形芸術大学教授		

4. 調査研究活動

4-1 学芸員の活動

(1) 博物館研究費による研究

- 長舟洋司 ・ 疋田敬蔵に関する研究
鈴木忠司 ・ 岩宿時代の食体系再考—根茎類の採集効率の検討と調理実験をとおして—
土橋 誠 ・ 古式競馬（賀茂競馬など）の研究
大塚活美 ・ 近世以降の阿育王塔についての考察
大塚活美・野口 剛・洲鎌佐智子
・ 館所蔵「誓願寺門前図」の総合的研究
藤本恵子 ・ 近代における友禅染の諸相
野口 剛 ・ 近世の狩野派における絵画学習に関する調査、研究

(2) 外部研究費・共同研究等による研究

- 野口 剛 ・ 文部科学省科学研究費基盤研究（B）（1）「江戸時代における「書画情報」の総合的研究—『古画備考』を中心に—」（代表：玉蟲敏子武蔵野美術大学教授）研究協力者
南 博史 ・ 『エルサルバドル・チャルチュアパ遺跡考古学プロジェクト』（代表：伊藤伸幸名古屋大学助手、新大陸文化研究所代表）研究協力者
植山 茂 ・ 科学研究費基盤研究B「統一新羅時代瓦の総合的研究」（代表：高正龍立命館大学教授）研究協力者
大塚活美 ・ 日本学術振興会科学研究費基盤研究S「中近世風俗画の高精細デジタル画像化と絵画史料学的研究」（代表：黒田日出男立正大学教授）研究協力者
森脇清隆 ・ 大阪芸術大学藝術研究所特別プロジェクト「玩具映画及び映画復元・調査・研究プロジェクト」（代表：太田米男大阪芸術大学教授）研究協力者

(3) 出講・委嘱

- 藤本恵子 ・ 第39回日本伝統工芸染織展 鑑査副委員長
・ みやこ技塾（京都市繊維技術センター研修事業）講師（2005年9月22日）
洲鎌佐智子 ・ 京都造形芸術大学（通期）「博物館学」
・ 滋賀県立陶芸の森陶芸館評価委員
鈴木忠司 ・ 古代学協会委嘱『古代文化』刊行委員会

編集参与

- ・ 岩宿文化賞選考委員
植山 茂 ・ 京都府立大学（通年）「博物館実習講義」
南 博史 ・ 京都外国語大学出講（通年）「博物館実習Ⅰ」「博物館学Ⅰ・Ⅱ」
・ 古代学協会委嘱『古代文化』刊行委員会編集参与
大塚活美 ・ 滋賀県教育委員会 自然神信仰調査調査員
森脇清隆 ・ 京都国際学生映画祭 顧問
・ 芸術科学会関西支部幹事
・ Leonard 2005 審査委員（芸術科学会主催）

(4) 学芸員の業績

a. 論文・著作

- 藤本恵子 ・ 図録『千總コレクション 京の優雅～小袖と屏風』企画／編集（京都文化博物館、2005年6月）
・ 「千總コレクション 京の優雅～小袖と屏風」から出品作品紹介（『毎日新聞』2005年6月）
・ 「流行・創造のエネルギー」（『歴博』132号、“流行”所収、2005年9月）
・ 「千總コレクション 京の優雅～小袖と屏風」展によせて（『平安建都1200年記念協会ニュース』春号No.57所収、2005年6月）
・ 「翻刻：風俗研究家・吉川観方の日記（昭和11年4月～12月分）」（京都文化博物館研究紀要『朱雀』第18集所収、2006年3月）
洲鎌佐智子 ・ 「柳宗悦の民藝と巨匠たち展」（『読売新聞』5回連載、2005年12月）
・ 「京都の美術見てある記—柳宗悦の民藝と巨匠たち展」（『京都民報』2005年12月18日）
・ 「柳宗悦の民藝と巨匠たち展によせて」（『文化財レポート』No18所収、2006年2月）
・ 「京都文化博物館所蔵「誓願寺門前図」の概要（分担）」（京都文化博物館研究紀



図録「京の優雅～小袖と屏風～」(表紙)

- 野口 剛
- 要『朱雀』第18集所収、2006年3月)
 - ・松島・天橋立・厳島 日本三景展(『UP』8月号所収、2005年7月)
 - ・「江戸時代の人々は日本三景の絵画をどう見たか(『展覧会図録『日本三景展』所収、2005年8月)
 - ・「江戸中期・京都の狩野派における絵画学習一雲鯨「学画卷」(画道秘録)の紹介をとおして一」(京都文化博物館研究紀要『朱雀』第18集所収、2006年3月)
 - ・「京都文化博物館所蔵「誓願寺門前図」の概要(分担)」(京都文化博物館研究紀要『朱雀』第18集所収)
- 鈴木忠司
- ・「石蒸し調理実験の成果と岩宿時代の植物食」(『考古学ジャーナル』531所収、2005年6月)
 - ・「Residue of starchy tissues on stone artefacts in Japan (分担)」(日本文化財科学会第22回大会発表要旨集所収、2005年7月)
 - ・「偉大なるシルクロードの遺産一中央アジアオアシス国家の輝き一展によせて」(『文化財レポート』No.17所収、2005年10月)
 - ・「岩宿時代の水と川をめぐる立地論一サケ漁の周辺」(京都文化博物館研究紀要

- 『朱雀』第18集所収、2006年3月)
 - ・「石蒸し調理実験記録6)一破損率の石質別比較および礫群規模と調理可能量をめぐって一(分担)」(『新潟県立歴史博物館研究紀要』第7集所収、2006年3月)
- 植山 茂
- ・「拓本の『ちから』」(日本図案家協会『拓ニュース』5号所収、2005年6月)
 - ・「『考古展』の価値再認識を」(『京都新聞』2005年6月28日朝刊「提言」欄)
- 南 博史
- ・「エルサルバドル・チャルチュアパ遺跡の考古学調査と地域開発」(京都文化博物館研究紀要『朱雀』第18集所収、2006年3月)
- 土橋 誠
- ・「翻刻『競馬口伝抄』上巻」(京都文化博物館研究紀要『朱雀』第18集所収、2006年3月)
 - ・「賀茂競馬草創に関する二三の憶説」(『京都府埋蔵文化財論集』第5集所収、2006年3月)
 - ・「淳仁天皇一ほんろうされた傀儡の帝<藤原仲麻呂の王朝篡奪計画>」(栄原永遠男編『古代の人物3 平城京の落日』所収、清文堂、2005年12月)
- 大塚活美
- ・図録『京の食文化展』企画/編集(京都文化博物館、2006年3月)
 - ・「解説 京の食文化展一京料理・京野菜の歴史と魅力一」(作品解説)(図録『京の食文化展』所収、2006年3月)
 - ・「京都文化博物館所蔵「誓願寺門前図」の概要(分担)」(京都文化博物館研究紀要『朱雀』第18集所収、2006年3月)
 - ・「郷祭りにおける複数村落祭祀の成立一近江国蒲生郡を中心に一」(転載)(『日本史学年次別論文集 中世2 2003年』所収、2006年3月)
- 森脇清隆
- ・「映画と音の良い関係」(京都新聞、2005年10月31日)
 - ・「お笑いだけが大阪やない!一根性・人情・心意気」(京都新聞、2005年11月28日)
- b. 発表・講演**
- 鈴木忠司
- ・「石蒸し調理実験からみた礫群研究」(明大調布校舎、第210回石器文化研究会、2006年3月4日)

- ・「京都盆地に人が住み始めた頃」(歴史常設展展示解説、京都文化博物館、2005年12月17日)
- ・「埋納銭―室町時代 花の都のお金事情―」(歴史常設展展示解説、京都文化博物館、2006年2月18日)
- 植山 茂 ・「武者行列模型」(歴史常設展展示解説、京都文化博物館、2005年6月11日)
- ・「模写・模造の活用と実際」(文化庁「第4回指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナー」、京都国立博物館、2005年11月11日)
- ・「西賀茂瓦窯における瓦の生産」(ミニシンポジウム「平安京の瓦生産と大山崎瓦窯」、大山崎ふるさとセンター、2006年3月19日)
- ・「台所道具」(歴史常設展展示解説、京都文化博物館、2006年3月25日)
- 南 博史 ・「歴史展示について」(MOKの会新人研修、京都文化博物館、2005年6月11日)
- ・特別講演「視聴覚教育メディア論」(京都造形芸術大学、2005年9月21日)
- ・講演「メソアメリカの遺跡を巡る」(花園大学、2005年9月23日)
- ・「匠の世界：仏像」(歴史常設展展示解説、京都文化博物館、(2005年5月28日)
- ・MBC 特別番組「古代エジプト文明展」解説(MBC 南日本放送、2005年7月19日収録)
- ・「匠の世界：造園」(歴史常設展展示解説、京都文化博物館、(2005年10月22日)
- ・平成17年度兵庫県生活文化大学「遺跡でたどる新大陸古代文化」(〔財〕兵庫県芸術文化協会、2006年1月13日)
- ・同「古代マヤの遺跡を掘る」(〔財〕兵庫県芸術文化協会、2006年2月10日)
- 土橋 誠 ・「香道」(歴史常設展展示解説、京都文化博物館、2005年4月23日)
- ・「都城の変遷」(歴史常設展展示解説、京都文化博物館、2005年9月10日)
- ・「仮名の世界」(歴史常設展展示解説、京都文化博物館、2005年11月27日)
- ・「十二単」(歴史常設展展示解説、京都文化博物館、2006年1月7日)
- ・「京の食文化展」(「京の食文化展」ギャラ



2006年2月18日 学芸員による展示解説「埋納銭」
(鈴木学芸員/2階歴史展示室)

- リートーク、京都文化博物館、2006年3月29日)
- 大塚活美 ・「祇園祭」(歴史常設展展示解説、京都文化博物館、2005年7月15日)
- ・「大文字五山の送り火」(歴史常設展展示解説、京都文化博物館、2005年8月16日)
- ・「京の食文化展」(「京の食文化展」ギャラリートーク、京都文化博物館、2006年3月15日)
- ・「京の食文化展」(友の会文化講座、京都文化博物館、2006年3月23日)
- 藤本恵子 ・「京の優雅展」ギャラリートーク(2005年6月18日/7月2日)
- 森脇清隆 ・関西史と関西計画―文化の生成と自然的・社会的基盤「京都の映画撮影所の変遷」(国際日本文化研究センター、2006年1月28日)
- ・日本映画監督協会70周年記念上映会「映画監督山中貞雄について」(京都文化博物館、2006年3月9日)
- ・復元映画上映会「映画『槍供養』のデジタル復元について」(甞る日本映画―9.5mmフィルムからの復元映画特集解説、京都文化博物館、2006年3月24、26日)
- 野口 剛 ・「京の優雅展」ギャラリートーク(2005年6月18日/7月2日)
- ・「日本三景展」ギャラリートーク(2005年9月17日/10月8日)
- ・文化講座「描かれた日本三景―天橋立を中心に―」(京都府立丹後郷土資料館、2005年10月29日)

・中山道広重美術館日本美術史講座「十八世紀前半の京都画壇」(中山道広重美術館、2006年1月14日)

(5) ワークショップ

美術工芸常設展示 やきもの探偵団、出発!—子どもがやきものと出会う展覧会—関連企画

A) やきものづくり

日時 7月24日(日) 10時～、13時～、15時～の3回(所要時間90分)

定員 各15名

対象 中・小学生

参加費 1,500円

講師 谷口知巳(奈良芸術短期大学講師)

参加人数 計45名

B) 絵付け

日時 7月31日(日) 10時～、13時～、15時～の3回(所要時間60分)

定員 各15名

対象 中・小学生

参加費 500円

参加人数 計45名

日時 8月14日(日) 10時～、13時～、15時～の3回(所要時間60分)

定員 各15名

対象 中・小学生

参加費 500円

参加人数 計68名



2005年8月 美術工芸常設展示「やきもの探偵団、出発!」ワークショップ風景(洲鎌学芸員/3階美術工芸展示室)

5. 普及活動

5-1 出版物

(1) 京都文化博物館研究紀要『朱雀』

◇『朱雀』第18集

発行：京都文化博物館
発行日：2006年3月31日
印刷：(株)野崎印刷紙業
体裁：B5判、147ページ
編集担当：鈴木忠司
掲載記事：

【論攷】

鈴木忠司 岩宿時代の水と川をめぐる立地論
—サケ漁の周辺—

野口 剛 江戸中期・京都の狩野派における絵画
学習—雲鯨「学画卷」(画道秘録)の
紹介をとおして—

【研究ノート】

大塚活美・洲鎌佐智子・野口 剛
京都文化博物館所蔵「誓願寺門前図」
の概要

南 博史 エルサルバドル・チャルチュアパ遺跡
の考古学的調査と地域開発

【資料紹介】

土橋 誠 翻刻：『競馬口伝抄』(上巻)
藤本恵子 翻刻：『風俗研究家・吉川観方の日記』
(昭和11年4月～12月)

(2) 京都文化博物館年報

◇2004年度

編集・発行：京都文化博物館
発行日：2006年3月31日
印刷：(株)野崎印刷紙業
体裁：A4判、42ページ
編集担当：鈴木忠司

(3) 展覧会図録

◇『千總コレクション 京の優雅～小袖と屏風～』

編集：京都文化博物館学芸課
発行：京都文化博物館

発行日：2005年6月4日

制作・印刷：ニューカラー写真印刷株式会社
体裁：A4判、254ページ

編集担当：藤本恵子

◇『京の食文化展～京料理・京野菜の歴史と魅力～』

編集：京都文化博物館学芸課

発行：京都文化博物館

発行日：2006年3月10日

制作・印刷：ニューカラー写真印刷株式会社
体裁：A4判、160ページ

編集担当：大塚活美・土橋 誠

◇『京都府美術工芸新鋭選抜展～2006新しい波～』

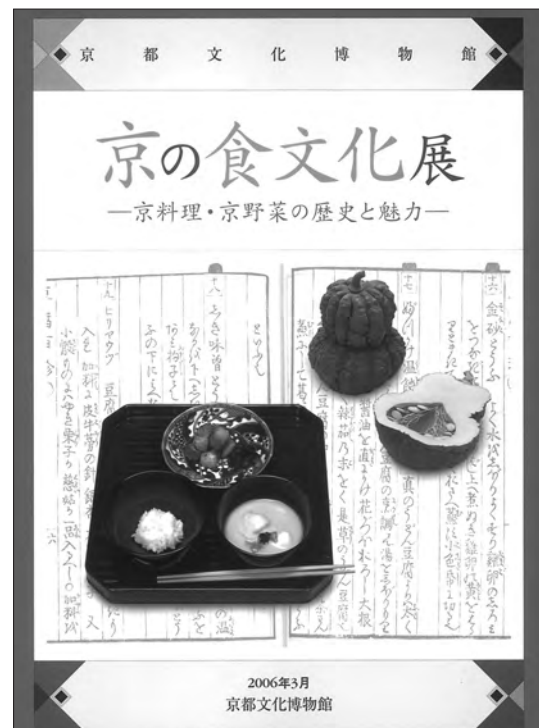
編集・発行：京都府・京都府京都文化博物館

発行日：2006年2月11日

制作・印刷：株式会社写真科学

体裁：タテ25cm×ヨコ21cm、56ページ

※各書の奥付に発行日のないものは、その展覧
会の開始日を挙げた。



図録『京の食文化』展(表紙)

5-2 講演会・音楽会

(1) 講演会など

開催年月日	講師	所属等	演題・テーマ	備考
2005. 4.23	土橋 誠	当館学芸員	香道	歴史常設展展示解説
2005. 5.28	南 博史	当館学芸員	匠の世界：仏像	歴史常設展展示解説
2005. 6.11	植山 茂	当館学芸員	武者行列模型	歴史常設展展示解説
2005. 6.12	切畑 健	大手前大学教授	京の優雅—老舗の美意識—	「京の優雅展」講演会
2005. 6.18	藤本 恵子 野口 剛	当館学芸員		「京の優雅展」ギャラリートーク
2005. 7. 2	藤本 恵子 野口 剛	当館学芸員		「京の優雅展」ギャラリートーク
2005. 7.15	大塚 活美	当館学芸員	祇園祭	歴史常設展展示解説
2005. 8.16	大塚 活美	当館学芸員	大文字五山の送り火	歴史常設展展示解説
2005. 9.10	土橋 誠	当館学芸員	都城の変遷	歴史常設展展示解説
2005. 9.17	野口 剛 島尾 新 長谷川成一	当館学芸員 多摩美術大学教授 弘前大学教授		「日本三景展」ギャラリートーク
2005. 9.23	堀野 宗俊 伊藤 太 知念 理	瑞巖寺宝物館学芸員 京都府立山城郷土資料館技師 広島県立美術館学芸員	日本三景の過去・現在・未来	「日本三景」展シンポジウム
2005.10. 8	野口 剛	当館学芸員		「日本三景展」ギャラリートーク
2005.10.22	南 博史	当館学芸員	匠の世界：造園	歴史常設展展示解説
2005.11. 5	樋口 隆康	泉屋博古館館長	シルクロード東伝の文化	「偉大なるシルクロードの遺産展」講演会
2005.11.12	柴田 広志	京都府立大学	アレキサンダー大王の遺産	「偉大なるシルクロードの遺産展」ギャラリートーク
2005.11.19	西林 孝浩	立命館大学講師	仏教美術とソグド人の美術	「偉大なるシルクロードの遺産展」ギャラリートーク
2005.11.19	窪島誠一郎	無言館館主	無言館のこと —生と死の画家たち—	「遺された絵画」展講演会
2005.11.27	土橋 誠	当館学芸員	仮名の世界	歴史常設展展示解説
2005.12.17	鈴木 忠司	当館学芸員	京都盆地に人が住み始めた頃	歴史常設展展示解説
2006. 1. 7	土橋 誠	当館学芸員	十二単	歴史常設展展示解説
2006. 1.14	尾久 彰三	日本民藝館学芸員	柳宗悦の仕事とその根本思想	「柳宗悦の民藝と巨匠たち展」講演会
2006. 2.18	鈴木 忠司	当館学芸員	埋納銭 —室町時代 花の都のお金事情—	歴史常設展展示解説
2006. 3. 9	森脇 清隆	当館学芸員	映画監督山中貞雄について	日本映画監督協会 70 周年記念講演会
2006. 3.15	大塚 活美	当館学芸員		「京の食文化展」ギャラリートーク
2006. 3.18	熊倉 功夫	林原美術館館長	京料理 1200 年の歴史	「京の食文化展」講演会
2006. 3.22	竹下 悦子	御食国若狭おばま食文化館学芸員		「京の食文化展」ギャラリートーク
2006. 3.24	森脇 清隆	当館学芸員	映画「槍供養」のデジタル復元について	常設映像作品解説
2006. 3.25	植山 茂	当館学芸員	台所道具	歴史常設展展示解説
2006. 3.26	森脇 清隆	当館学芸員	映画「槍供養」のデジタル復元について	常設映像作品解説
2006. 3.29	土橋 誠	当館学芸員		「京の食文化展」ギャラリートーク
2006. 4. 1	久保 功	野菜文化史研究者	歴史と文化で見えます京野菜	「京の食文化展」講演会

(2) 音楽会

a. 京都文化博物館音楽会シリーズ

「歴史と共に〈音楽〉を楽しむ」

主催：京都文化博物館

後援：京都文化博物館友の会

協賛：吉忠株式会社

協力：アマデウス音楽事務所

企画・解説：岩淵龍太郎（京都市立芸術大学名誉教授・京都文化財団理事）

◇歴史と共に〈音楽〉を楽しむ音楽会シリーズ・XIV 優美で限りなく豊かな天才音楽家—メンデルスゾーン—

第4夜	甘美なメロディーとシンフォニックな迫力 —ピアノトリオと六重奏曲—	2005年5月13日	223名
お話し	岩淵龍太郎(京都市立芸術大学名誉教授)		
演奏	平田葉子(ピアノ) / 田辺良子(ヴァイオリン) / 尾崎幸子(ヴィオラ) / 藪下英里(ヴィオラ) / 日野俊介(チェロ) / 西出昌弘(コントラバス)		
曲目	ヴァイオリンとピアノのためのソナタ へ短調 Op4 ピアノ三重奏曲 第一番 二短調 Op49、六重奏曲 二長調 Op110		
第5夜	魅惑のデュオ —ヴァイオリンとピアノ、ヴィオラとピアノ、チェロとピアノ—	2005年6月28日	135名
お話し	岩淵龍太郎(京都市立芸術大学名誉教授)		
演奏	田辺良子(ヴァイオリン) / 尾崎幸子(ヴィオラ) / 上田康雄(チェロ) / 大谷正和(ピアノ)		
曲目	ヴィオラとピアノのためのソナタ 八短調、チェロとピアノのためのソナタ第2番 二長調 ヴァイオリンとピアノのためのソナタ へ長調		
第6夜	究極の優雅なコンビネーション —弦楽のための交響曲—	2005年8月12日	118名
お話し	岩淵龍太郎(京都市立芸術大学名誉教授)		
演奏	田辺良子(ヴァイオリン) / 永井利佳(ヴァイオリン) / 萩原合敏(ヴァイオリン) / 渡部真美(ヴァイオリン) / 尾崎幸子(ヴィオラ) / 藪下英里(ヴィオラ) / 日野俊介(チェロ) / 古味寛康(コントラバス)		
曲目	弦楽のための交響曲第一番 八長調、弦楽のための交響曲第9番 八長調、弦楽のための交響曲第10番 口短調		

◇歴史と共に〈音楽〉を楽しむ音楽会シリーズ・XV 弦楽による二重奏・三重奏の秘めたる輝き

第1夜	絶妙なハーモニーとメロディーとドラマ	2005年10月20日	104名
お話し	岩淵龍太郎(京都市立芸術大学名誉教授)		
演奏	岩淵龍太郎(ヴァイオリン) / 恵谷真紀子(ヴィオラ)		
曲目	モーツァルト / ヴァイオリンとピアノのための二重奏曲第1番 ト長調K.423 モーツァルト / ヴァイオリンとピアノのための二重奏曲第2番 変ロ長調K.424		
第2夜	荘厳なるヴィルトゥオーソの迫力	2005年12月1日	79名
お話し	岩淵龍太郎(京都市立芸術大学名誉教授)		
演奏	日比浩一(ヴァイオリン) / 竹内晴夫(ヴィオラ)		
曲目	ハイドン / ヴァイオリンとヴィオラのための二重奏曲第4番 二長調 ヴァイオリンとヴィオラのための二重奏曲第6番 八長調		
第3夜	難曲とエピソードに彩られた大ヴァイオリニスト —シュポア—	2006年2月17日	72名
お話し	岩淵龍太郎(京都市立芸術大学名誉教授)		
演奏	木村みお(ヴァイオリン) / 船津真美子(ヴィオラ)		
曲目	シュポア / 二つのヴァイオリンのための二重奏曲 Op.39		

b. 祇園祭協賛事業

日時：2005年7月14日・15日・16日

主催：京都文化博物館

後援：京都文化博物館友の会・京都文化博物館ろ
うじ店舗博和会

会場：京都文化博物館 別館ホール

演奏者：7月14日 京都市交響楽団(クラシック演奏・公開リハーサル)

京都市交響楽団(クラシック演奏)

7月15日 生田流宮城会麗調会社中(箏曲演奏)

L.A.(70年代ポップス)

Cats & Doll(ジャズ・セブテット)

Monday Cats(カントリーミュージック)

Fortune(フォークソング)

7月16日 ユーгент弦楽五重奏団(クラシック、ポップス)

アドニスジャズオーケストラ(ジャズ・ラテン)

足立恵二インターアクション(ジャズ・ギターコンボ)

ふら〜っとオールスター(ジャズ・フュージョン)

ニューシャープハードオーケストラ(ジャズ・スウィング)

生田流宮城会麗調会社中(箏曲演奏)

入場者：3,429人

※祇園祭協賛事業として開催し、午後9時まで別館の開館時間を延長した。

c. 別館リニューアルオープン記念 ミュージアムコンサート

日 時：2005年5月17日～20日 各日、午後2時、4時、6時の3回公演

会 場：京都文化博物館 別館ホール

演奏者：5月17日 R.U. Swingin'HERD JAZZ Ensemble (ジャズ・ビッグバンド)

5月18日 鶴_tugumi- (童謡コンサート)

5月19日 サジャズバディデュオ (ジャズ、ポップス)

5月20日 rimacona _リマコナー (ポッ

プス)

入場者：1,110人

(3) その他

別館リニューアルオープン記念 似顔絵コーナー

日 時：2005年5月17日～20日 各日、午後1時～6時

会 場：京都文化博物館 別館ウッドデッキ (18日は雨のため中庭で実施)

制作者：京都精華大学大学院生・学生 各日3名

利用者：156名

5-3 博物館実習

①第1組

実施期間：2005年8月9日～8月12日

実習生：京都府立大学5人、京都ノートルダム女子大学3人、京都女子大学2人、京都文教大学1人、愛媛大学1人

②第2組

実施期間：2005年9月13日～9月16日

実習生：立命館大学5人、京都造形芸術大学3人、龍谷大学2人、京都精華大学1人、京都外国語大学1人

③実習内容・担当者

- ・博物館の概要・館内見学—鈴木・長舟
- ・美術資料について —野口
- ・工芸資料について —洲鎌・藤本
- ・民俗資料について —大塚
- ・文献資料について —土橋
- ・考古資料について —南・植山
- ・映像資料について —森脇
- ・展示照明について —長舟
- ・まとめと反省 —全担当学芸員

5-4 その他の活動

(1) 資料閲覧室

当館の図書資料は、歴史・考古・美術・工芸・映像など多分野にわたり、現在単行本約64,700冊、逐次刊行物約3,200タイトル(70,000冊)を収蔵している。中でも埋蔵文化財の発掘調査報告書が約26,300冊、展覧会図録 が約10,000冊と多く、また、映画のシナリオを約12,000冊収蔵しているのも特徴である。これらの図書資料については、研究目的で特に閲覧を希望する者に対して公開している。なお、本年度の書籍の受け入れ数は、1,800件であった。

(2) 文化情報コーナー

1階の文化情報コーナーでは、京都府内を中心とする美術館・博物館などの文化施設から送られてくるチラシやリーフレットなどを置いて、来館者が自由に持ち帰ることができるようにするとともに、近畿の歴史文化についてのDVDによる動画情報の「歴史街道—ロマンへの扉」を設置して、来館者に情報を提供している。また、NTTの無線LANスポットの設置場所にもなっている。

(3) 生涯学習ボランティア

当館の生涯学習ボランティアは、京都府長寿社会政策室が生涯学習の振興を図るため、京都府の文化施設にボランティアを導入するよう呼びかけ、これに応じて平成6年4月15日に英語ボランティア・グループ「MOKの会」を結成した。

以後、外国人の入館者を対象に、2階常設展示(歴史展示室)において英語によるガイドとしてサービスを行っている。

また、「MOKの会」の行事として総会・例会・研修会などを通じ、会員の研鑽に努め独自の活動を実施している。

◇2005年度の役員(会員数39名)

会 長：今井嘉夫

副会長：津田恵都子

副会長：浜田千鶴子 (敬称略)

◇2005年度の活動

2005年4月9日 2005年度総会

6月11日 新人研修会 新会員：木村慶一、森原勝司、嶋本恵美

6月18日 6月例会
 9月10日 9月例会
 9月17・18日 SKYふれあいフェスティバル
 2005参加
 11月12日 見学研修会（於：河村能楽堂）
 11月17日 京都府生涯学習文化施設ボランティア
 連絡会「第8回学習のひろば」参加

（於：堂本印象美術館）
 2006年1月14日 1月例会
 3月18日 3月例会 2006年度役員選出
 会長：志賀 博
 副会長：木村弘子
 副会長：日下部純江（敬称略）

(4) 団体見学案内

個人での来館とは別に、数人から100人程度のグループによる来館が約6,000人ある。これに対しては、事前の申し出があれば施設、常設展示、特別展等の解説に依っている。グループ来館件数は160件前後で、このほぼ半数が解説を希望されている。団体来館は学校の授業、修学旅行などの行事の一環として行なわれることが主体で、全体のほぼ三分の二をしめるが、各

種のサークルによる訪問も多い。学校の区分では中学校が約20%で一番多い。これに高校、大学、小学校がつく。このなかでは修学旅行の勉強の一環として質問事項を携えた数人のグループによる来館が目につく。好ましいことである。大学生の場合は博物館実習の一環としての見学が少なくない。

団体案内

平成16年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ人数	253	762	557	997	156	347	816	691	160	113	201	478	5531
来館件数	9	20	15	28	7	10	17	14	6	3	5	13	147
解説件数	6	12	7	6	4	6	11	4	5	2	3	7	73

平成17年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ人数	264	1005	893	321	278	644	881	811	288	101	249	233	5968
来館件数	4	20	28	12	10	18	17	19	11	6	8	12	165
解説件数	2	7	16	4	2	11	7	11	6	3	5	7	81

(5) 京都文化博物館友の会

友の会は、歴史、美術、工芸、映像等に興味を持つ人々が、京都文化博物館を通して楽しみながら博物館活動に協力することを目的とする。

1. 会員の特典

- ・ 会員証で常設展（映画鑑賞を含む）、特別展の無料での観覧
- ・ 会員同伴者5人以内を限度として1人20%の割引
- ・ 友の会が主催・後援する行事等の案内
- ・ 毎月、博物館の催事情報や各種行事案内の送付
- ・ 博物館発行出版物の割引

2. 会費

- ・ 個人会員年会費 6000円
- ・ グループ 会員（2名以上）
年会費 5000円

3. 2005年の状況

会員総数；724名（個人532名、グループ192名）

◇ 見学会

第1回 2005年9月9日

見学先 萬福寺山内と松隠堂修理工事現場及び
宝蔵院一切経版木（宇治市）

説明者 赤松達明氏（萬福寺執事長）

富沢祥光・浅井健一氏（京都府教育委員会文化財保護課専門員）

参加者 34名

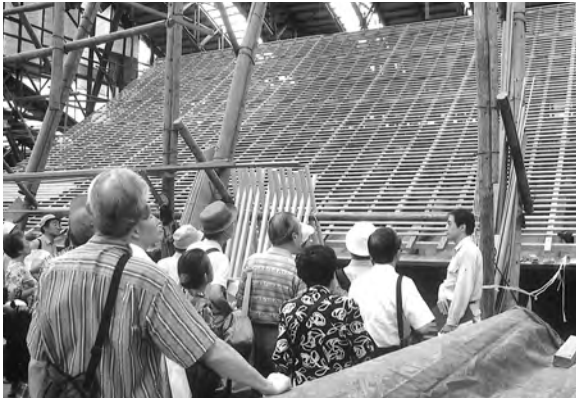
第2回（文化財保護基金室との共催）

日時 2005年12月20日

見学先 同志社大学寒梅館及びクラーク記念館

説明者 鋤柄俊夫氏（同志社大学助教授）

鶴岡典慶・吉田 理氏（京都府教育委員会文化



2005年9月9日「友の会」見学会
(萬福寺松蔭堂修理現場)

財保護課)

参加者 80名

◇文化講座

第1回 2005年6月21日「京の優雅～小袖と屏風～」

場 所 別館講義室及び千總資料館と図案室見学)

参加者 20名

講 師 藤本 恵子(京都文化博物館学芸員)
泉 要次郎氏(千總資料室)

第2回 2006年1月18日「京都の前衛陶芸『四耕会』から『走泥社』まで」

場 所 別館講義室

参加者 19名

講 師 林 康夫氏(陶芸家)

第3回 2006年3月23日「京の食文化展と復元食の試食」

場 所 別館講義室及び4階特別展会場

参加者 31名

講 師 大塚活美(京都文化博物館学芸員)

(6) 地域との連携

①「まちなかを歩く日」への参加と協力

地域住民・団体が中心となってすすめている「歩いて暮らせるまちづくり推進会議」(2000年7月設立)が、活動趣旨の啓発と普及を図るために地域全体で開催する「まちなかを歩く日」のイベント(11月5・6日)に、当館も昨年に引き続き参加した。第6回目となる今回は、「秋、まっさかり 京の精髓、ここにあり」を活動のテーマとし、京のまちなか9学区(城巽、龍池、本能、明倫、初音、柳池、日彰、生祥、立誠)において、さまざまな活動が行われた。

当館が協力・参加した活動は以下のとおりである。

a.「イベントめぐりスタンプラリー」に対する協力

- ・携帯電話web版「駒札めぐり」での協力
- ・発着点業務など

b.別館前総合情報拠点設置(5日・6日)

c.「荻野矢慶記写真展」(10月29日～12月4日)

特別展「偉大なるシルクロードの遺産展」関連企画。ろうじ店舗にて展開(無料)

d.ぶんばく・おこしやすフリーマーケット(5日・6日)

高倉通に沿って館員が中心となったフリーマーケットを展開した。

e.高倉小学校生徒による「まちなか安全ポスター」展(5・6日)

歩いて暮らせるまちづくり推進会議主催。高倉小学校の生徒がまちなかを調査。おもに駐輪や自動車問題をテーマに、安全啓発のため子どもたちが制作したポスターを展示した。

f.「まちなか子ども探検隊2005」作品展示への協力(5・6日)

まちなか子ども探検隊主催、歩いて暮らせるまちづくり推進会議共催

夏休み、小学校高学年を対象としたまちなか探検隊「星のYOUびんやさん」の展示会。子どもの目線でみたまちなかとは?探検隊の子どもが撮った写真などを展示。

②「関西文化の日」事業への連携

関西広域連携協議会、関西元気文化圏推進協議会主催の本事業に、11月19日(土)、20日(日)の両日協力した。常設展を無料開放し、2日間で1,161人(19日:522人、20日:639人)の方々にお越しいただいた。無料ということもあり、お客様の反応もよく、普段博物館になじみのない方にも親しんでいただくことができた。

③「きものの似合うまち・京都」づくり推進事業への協力

今年も昨年に引き続き、10月1日(土)から12月18日(日)まで、本事業への協力を行った。期間中には、和服姿の来館者が目に見えて増加し、本事業の定着と着実な効果が感じられる。

本事業は、京都府、京都市、京都商工会議所、(財)京都和装産業振興財団、京都織物卸商業組合、西陣織工業組合、京友禅協同組合連合会、京染卸商業組合、西陣織物産地問屋協同組合の9団体が構成する「きものの似合うまち・京都」推進委員会の主催事業であり、2001年度から始められたものである。

当初は、着物での来館者に対する割引制度であったが、2003年度からは、「きものパスポート」持参のきもの着用者は無料、同伴者は20%割引と、サービス内容が充実した。そのため利用者も増え、今年度は、特別展への入館者は、759人、常設展への入館者は346人であった。

また、会期中には、別館ホールや本館エントランスを利用して、きものファッションショーやワークショップ、伝統産業の体験、実演など多彩なイベントを行い、特に週末や祝日は多くのお客様でにぎわった。映像ホールでは、「映画日和キモノ座」と題して和装に関連した映画の上映も行った。

さらに、本事業に関連して、今年度春に行われた「京都市伝統産業の日」[京都市主催、3月11日(土)～3月21日(火・祝)]の事業にも併せて協力した。春の実施期間には、特別展への入館者は706人、常設展への入館者は60人であった。

加えて今年度から、成人の日[1月9日(月・祝)]も、きもの着用者については無料とした。ただし利用者はなかった。

④「ミュージアムぐるっとパス関西2005」への参加

今年度から、関西の2府3県(大阪、京都、兵庫、奈良、滋賀)の59施設と島根県の1施設、合計60施設で利用が可能な「ミュージアムぐるっとパス関西2005」事業を開始した。主催は前述の60施設で組織する「ミュージアムぐるっとパス関西2005」実行委員会である。1冊1,000円で販売するパスを購入すると、最初の利用日から2ヶ月間対象施設で入場が無料となるなど様々なサービスが受けられる。当館については、常設展が無料、特別展が2割引となる特典を設定した。

今年度の当館での利用者は、常設展886人、特別展873人であった。

6. ギャラリー事業

6-1 5・6階展示室

(1) 京都文化財団展示室運営委員会

美術・工芸作家等が京都文化博物館5・6階展示室及び京都府立文化芸術会館展示室を使用するにあたって、展示室運営を適正かつ円滑に進めるために、京都文化財団では展示室運営委員会を設置している。本委員会の委員は学識経験者ならびに美術・工芸作家の中から理事長が委嘱し、任期は2年である。

委員会の構成は学識者1名、日本画3名、洋画2名、彫刻1名、工芸3名（染織・陶芸・漆芸各1名）、書2

名（仮名・漢字各1名）、写真1名の計13名で、展示室の使用を希望する美術・工芸作家などの作品について審議している。

2005年度の委員会は以下のとおり開催した。

展示室委員会

委員会開催日	審議対象期間	件数
2005年 6月24日	2005年12月～2006年 3月	15
11月 4日	2006年 4月～2006年 7月	16
2006年 2月23日	2006年 8月～2006年11月	16

(2) 美術・工芸作家の利用

当館では開館以来、5階展示室に美術・工芸作家が利用できる場を設けている。利用期間を原則として毎月21日から月末の前日までと定め、府内に活動の本拠を持つ作家及び府内にゆかりのある作家に限定している。展示作品は、絵画・彫刻・工芸・書・デザイ

ン・写真・華道などのジャンルで、内容の充実しているものとし、利用の可否については、展示室運営委員会において利用申込者の作品を審議して決定している。

2005年度の利用件数は、51件であった。

作家利用一覧

会 期	展覧会名	分 野	会 期	展覧会名	分 野
2005. 4.19～24	伊丹公子・河野允子展	美術総合	10.26～30	面法会 能面・狂言面展	諸工芸
4.19～22	伊丹公子展	染 織	10.25～30	齋藤真成展	洋 画
4.21～24	光勲能面會展	諸工芸	10.27～30	書の会「躍」展	書
4.20～24	日本画光玄展	日本画	10.28～30	絵更紗画林展	染 織
4.20～24	蒼龍展	書	11. 1～ 6	齋藤真成展	洋画
4.27～5/1	北奥耕一郎写真展	写 真	11. 2～ 6	櫛の会能面展	諸工芸
4.27～5/1	大塚亮治の面展	諸工芸	11.24～28	京の名工展	工 芸
4.27～5/2	新日美京都巡回展	美術総合	11.22～27	京藍友禅 橋詰清貴の世界	染 織
5.19～22	絵更紗美術協会会員作品展	染 織	12. 7～11	創工会展	工 芸
5.25～29	京の書一先達の軌跡一	書	12.14～18	第10回京都現代写真作家展	写 真
6. 7～12	日本画ジャック	日本画	12.21～25	帆の会展	洋 画
6. 8～12	京都丹平写真展	写 真	12.21～25	白土会洋画作品展	洋 画
6. 8～12	染・四君子の会展	染 織	12.21～25	鄭月妹苗画展	日本画
6.22～26	岡田明彦個展	染 織	12.23～25	堀出恒夫写真展	写 真
6.22～26	種々展	日本画	2006. 1.24～29	大橋紀雄写真展	写 真
6.22～26	きもの装う	染 織	1.26～29	京都現代書芸展	書
7. 6～10	2005 京都日本画家協会選抜展	日本画	2.17～19	京都橘女子大学日本語日本文学書道コース ・大学院文学研究科言語文化専攻卒業制作展	書
7.27～31	アートサイト京都2005・成安造形大学選抜展	総 合	2.24～26	水明選抜書展	書
8.17～21	六轡会篆刻作品展	書	3.18～20	あまがつ会人形展	諸工芸
8.24～28	ファインド・アイ現代文人光画展	写 真	3.15～19	汎具象会友と受賞作家展	洋 画
8.26～28	三餘会書展	書	3.16～19	面匠会京都能面展	諸工芸
9.21～25	光風工芸「明日へのかたち」展	工 芸	3.21～26	出口育子個展	洋 画
9.21～25	平安書道会聚英展	書	3.22～26	面風會能面・狂言面	諸工芸
9.22～25	京都ユネスコ協会美術工芸展	美術総合	3.22～26	蒼龍展	書
10.18～23	石井視子絞り染め展	染 織	3.22～26	新日美京都支部展	美術総合
10.19～23	蒼蒼展	洋 画			
10.21～23	小桜会織物展	染 織			
			計 51件 (117日間) 45,709人		

作家利用分野別入場者

	美術						工芸				美術 工芸 総合	総 計
	日本画	洋画	書	写真	彫刻	美術総合	染織	陶芸	諸工芸	工芸総合		
使用件数	5	6	10	6	0	3	9	0	7	3	2	51
割合 (%)	10%	12%	20%	12%	0%	6%	18%	0%	14%	6%	4%	100%
入場者数	4,909	4,240	8,902	8,126	0	2,225	5,460	0	5,429	5,369	1,049	45,709
1件平均入場者数	982	707	890	1,354	0	742	607	0	776	1,790	525	896

(3) 生涯学習的発表期間の利用

1998年より、5階・6階各展示室に生涯学習的発表期間を設けた。これは美術・工芸作家の利用に準ずる

利用期間として、美術・工芸作家及び技能芸能継承者の指導するグループの発表期間を設けたものである。

生涯学習利用分野別入場者数

会場	会 期	展 覧 会 名	分 野	入場者数
5階	2005. 4.14～ 4.17	京都平安花倶楽部押し花アート展	諸工芸	1,674
	4.14～ 4.17	ブベドール創作陶磁器人形展	諸工芸	1,633
	4.27～ 5. 1	大塚亮治能面教室展	(工芸) 総合	559
	5.14～ 5.15	鐵心会書展	書	922
	6.14～ 6.19	第23回 上野の森美術館大賞展関西展	洋 画	1,576
	6.29～ 7. 3	人形組摩浮・京都展 トールシンフォニー in 京都	諸工芸	1,056
	7.20～ 7.24	大阪成蹊大学芸術学部3年生展	(美術) 総合	518
	8. 2～ 8.10	赤木曠児郎パリ風景画展	洋 画	2,105
	9.16～ 9.19	アトリエ KYOU パッチワーク展	諸工芸	807
	9.16～ 9.19	坂田彩湖遺作展	染織/染色	509
	10. 7～ 10. 9	和紙ちぎり絵ひまわり第19回京都展	諸工芸	267
	10. 7～ 10.10	能面展「猶眞の面」	諸工芸	193
	10.12～ 10.16	八十山和代展	洋 画	680
	10.13～ 10.16	栄美子戸田ローブとニューゼファーズキルト展	諸工芸	1,013
	11. 2～ 11. 6	リバティのパッチワークキルト展	諸工芸	626
	11.24～ 11.27	天道写真塾読売ばるる教室作品展	写 真	716
	2006. 1. 6～ 1. 9	大藪沙羅書芸教室新春書芸展	書	1,302
	1.20～ 1.22	ABC with EEA21 第5回記念展 京都	(美術) 総合	903
	1.24～ 1.29	和紙布 わしふ展示会	諸工芸	818
	2. 9～ 2.12	京の伝統工芸新人作品展	(工芸) 総合	3,940
3. 3～ 3. 5	第19回全国シルバー書道展京都展	書	1,140	
3. 9～ 3.12	京都工芸繊維大学造形工学科卒業制作展	(美術) 総合	1,089	
計 22件 使用日数: 96日				24,046

会場	会 期	展 覧 会 名	分 野	入場者数
6階	2005. 4.23	平成17年染織光悦會展	染織/染色	419
	5. 8	競技かるた講習会	その他	40
	5.11	体験学習「能楽」	その他	130
	5.13	体験学習「京焼絵付け」	その他	108
	5.24	体験学習「京舞」	その他	120
	6.12	第10回あねさん亭文博寄席「落語会」	その他	120
	6.25	体験学習「京舞」	その他	179
	7.29～ 7.31	(財)片山家能楽保存財団 第9回 能装束・能面展	(工芸) 総合	1,391
	8.16～ 9.11	展覧会 源氏物語と京都「京の家づと」	その他	6,545
	9.19	長唄としひろ会浴衣会	その他	100

9.24	第16回「謡講、京の町屋でうたいを楽しむ」	その他	110
10.12～10.13	第33回京都シニア大学学園文化祭	(美術) 総合	543
10.25	体験学習「京舞」	その他	44
10.26	体験学習「座禅」	その他	112
11. 1～11. 6	第5回「紬と織の公募展」	染織/染色	1,184
11.12～11.13	第八回竹心展	書	275
11.12～11.13	叡山学院墨跡展	書	181
11.18～11.20	第43回龍門社選抜書展	書	867
12. 4	体験学習「京舞」	その他	130
12. 6	体験学習「京舞」	その他	120
12.11	第11回あねさん亭文博寄席「落語会」	その他	110
12.17～12.18	富春軒三代(桑原専慶流家元)展	諸工芸	950
2006. 2.24～2.26	首里織・琉球びんがた展	染織/染色	1,211
3.10～3.12	純陽子 書と水墨展	書	314
3.18～3.21	京都金属工芸展	金工	615
3.25～3.26	第五回 霞会書展	書	164
計 26件		使用日数: 68日	16,082

生涯学習利用分野別入場者数

会場	和装 呉服	美術								工芸					美術 工芸 総合	総 計
		日本画	洋 画	書	写真	その他	美術 総合	小 計	染 織	陶芸・金 竹・漆	諸工芸	工芸 総合	小 計			
5階	件数	-	-	3	3	1	-	3	10	1	-	9	2	12	-	22
	日数	-	-	19	9	4	-	12	44	4	-	39	9	52	-	96
	人数	-	-	4,361	3,364	716	-	2,510	10,951	509	-	8,087	4,499	13,095	-	24,046
	件数	-	-	-	5	-	14	1	20	3	1	1	1	6	-	26
6階	日数	-	-	-	12	-	35	2	49	10	4	2	3	19	-	68
	人数	-	-	-	1,801	-	7,968	543	10,312	2,814	615	950	1,391	5,770	-	16,082

6階「その他」は体験学習、落語会等。

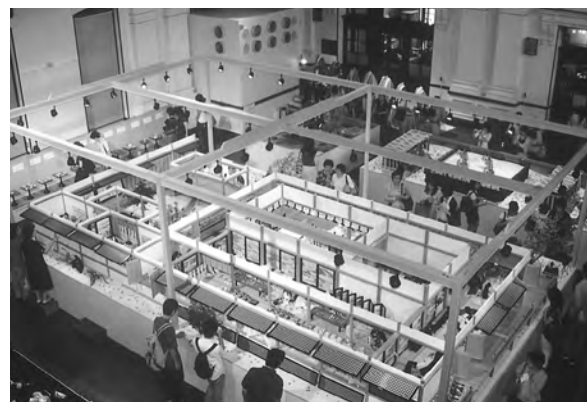
(4) 一般の利用

5階展示室及び6階展示室は美術・工芸作品の展覧会などの他、京物と称される京都の伝統産業製品を紹介することを目的とした展示会、内見会、見本市などの会場としても利用されている。

一般利用

場所	和装 呉服	染 織	美 術	工 芸	その他	計	
5階	件数	8	-	3	2	-	13
	日数	15	-	7	6	-	28
	人数	1,900	-	3,282	1,603	-	6,785
6階	件数	15	-	-	-	-	15
	日数	33	-	-	-	-	33
	人数	2,600	-	-	-	-	2,600

美術：日本画、洋画、書、写真など
工芸：陶芸、金工、竹工、漆芸、諸工芸など



2005年8月風俗博物館主催
「源氏物語と京都一六条院へ出かけよう」展（別館ホール）

6-2 別館ホール

旧日本銀行京都支店（重要文化財）の営業室であった別館ホールは、通常は明治時代の代表的な洋風近代建築の内部を公開しているが、一方で多目的ホールとしての機能も持っている。特別展の開会式やレセプション、音楽会など館主催の事業に使用するとともに、

貸会場として展覧会や音楽会などの利用にも提供している。

平成 17 年 1 月～3 月、京都文化博物館にぎわい創出事業による改修工事に入り別館ホールのギャラリー機能の充実が図られることとなった。

別館利用状況

会 期	展覧会・音楽会名	会 期	展覧会・音楽会名
4.17	姉小路界限を考える会講演会	10.30	京都きものの女王 2005 ビューティーページェント
4.23	子ども読書絵手紙コンテスト表彰式	11.1	京の伝統工芸体験教室
4.26～28	全国月の友の会幹月会 in Kyoto	11.1	「知って納得 使えるキモノ再発見」セミナー 1
5.15	Charme Spring Concert	11.2	京の伝統工芸体験教室
5.22	キタガワ祇恵子プロデュースダンス公演 2005「花薔薇」	11.2	「知って納得 使えるキモノ再発見」セミナー 2
5.25～29	メテユンデ展	11.3	きもの縁日 和・クラフトメッセ
5.29	通崎睦美マリンバコンサート	11.5	オータムコンサート（声楽と合唱）
5.31	体験学習「蹴鞠」	11.8	The Pearls Before Swine Experience 現代 特殊奏法マスタークラス
6.4	IT・墨・ファッションの KYOTO WEEK	11.9	The Pearls Before Swine Experience 現代 特殊奏法マスタークラス
6.5	Jazz at the Sanjo Bunka Museum	11.11～13	ステンドグラス展 10th anniversary「ワタシハガラスノ料理人」
6.11	京都フランス歌曲協会クレールコンサート	11.15～16	「和の服というキモノ」展
6.18	アンサンブルのタベ	11.18～20	アトリエエンジェルズステンドグラス展
6.19	佛教大学混成合唱団 Summer Concert	11.23～27	秦泉寺由子パッチワーク・キルトスクール作品展
6.24	埼玉県春日部市立豊春中学校合唱講習会	12.3	合唱団 Das Heberachen 演奏会
6.25	声楽コンソルテ・ルナ・エ・ソレ コンサート	12.4	京都室内合唱団定期演奏会クリスマスコンサート
6.26	クラリネットとピアノのデュオコンサート	12.6～11	How are you, PHOTOGRAPHY? 展
7.3	「ハッハアカデミー関西」教会暦によるカンタータ	12.17	月輪に覗きキモノ ファッションショー
7.9～10	Kyoto 建築士 2005	12.21	京都ラジオカフェ BS MUSE
7.12	レトワール・ブランシェ定期演奏会	12.23	合唱団「葡萄の樹」くりすますこんさーと
7.17	-不死-アムリタ インドの聖典	12.24	翔ユリ子クリスマスコンサート 聖夜一愛の贈り物-
7.24	京都の鯉を語る女性の会 おがたまの木コンサート	1.8～9	柳宗悦展協賛 京都文博骨董まつり
7.28	世界合唱祭 京都 Voice Cafe Live	1.13	平井真美子ピアノダイアリー
7.31	フェリックス室内合奏団定期演奏会	1.15	京都マチネー・ポエティック フランス詩とシャンソンの午後
8.6	オレゴンからやってきた 3 人	1.17～22	2005 光彩の響 日本ステンドグラス協会展
8.7	サマーカーニバル カントリー&ウエスタン	1.29	アマデウス・クラシックライブラリー 6
8.16～9.10	展覧会 源氏物語と京都 「六條院へでかけよう」	2.1～5	京都プレスセカンドライブ
9.17～19	三条あかり景色	2.7	京都フィルハーモニー室内合奏団定期演奏会
9.19	グループ Lydia コンサート	2.11	同志社学生混声合唱団 C.C.D フェアウェルコンサート
9.25	アマデウス マイコンサート	2.18	第 1 回 きょうと文博骨董まつり
9.28	京都フィルハーモニー室内合奏団定期演奏会	2.19	ゆめっとフォーラム「職業」～自分の道を歩くのだ
9.29	園まなみシャンソンコンサート	2.21	クリエイティブ of HAIR ～東洋へのこだわり？
10.1～2	平安京サミット～京雀 都のにぎわい～	2.25	Musica Fiorita ～春にあこがれて～
10.7	京都府まちづくりワークショップ	2.26	第 2 回 BELLE NOTE 春を告げる Embrio コンサート
10.8	知事と和い和いミーティング	3.1～2	京鹿の子絞工芸展
10.9	Dancing Flowers -インスピレーション-	3.3～5	KPA 京プリント後継者育成事業メイキングショップ 2006
10.14～16	京都アートフリーマーケット 2005 秋期	3.17～19	京都アートフリーマーケット 2006 春期
10.19	協同組合和座百衆創立 10 周年 （優良組合表彰受賞）記念展示発表会	3.21	SANISAI LIVE2006「GREETINGS」 in Kyoto
10.22	「ハッハアカデミー関西」教会暦によるカンタータ	3.22～26	専門学校飛騨国際工芸学園 Show & Shop2006 進級卒業家具展
10.23	オカリナアンサンブルファイブピース AUTUMN Concert		
10.25～28	オクトーバーフェスト・イン京都文化博物館		
10.29	男のきもの Innovation-Show & Live		

入場者数 計 82,378 人

7. 管理・運営

7-1 経営・企画委員会

平成16年8月11日の第1回「経営・企画委員会」の開催以来、博物館の活性化へ向けての取り組みがいよいよ本格的に始動した。「経営・企画委員会」内には「中期展望・常設展・IT」「マネージメント・特別展情

報収集等」「別館活用」にかかわる小委員会が設けられ、活発な議論が交わされた。

また、助言、提言を具体化させ、運営、経営改善に反映させるために、調査審議機関として博物館職員で構成する「経営・企画会議」をもうけている。

京都文化博物館経営・企画委員会等開催状況一覧

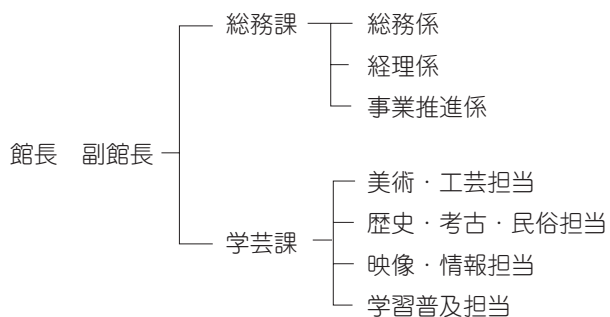
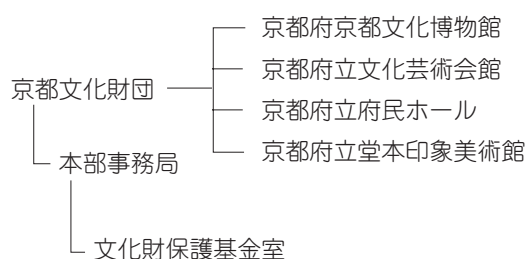
年 月 日	委員会又は小委員会	検 討 事 項
平成16年8月11日 <設置>	第1回経営・企画委員会	・施設概要及び「京都文化博物館活性化提言」の概要 ・調査検討事項及びスケジュール案 ・別館活用方策、にぎわい創出事業に係るプロポーザル ・常設展の見直し及びITを活用した博物館機能の充実
9月15日	別館活用小委員会①	・別館ホール活用コンセプト ・本館への動線と展示室の運用 ・大型ディスプレイの導入等情報発信
10月7日	中長期展望・常設展・IT小委員会①	・館の中長期展望 ・常設展のあり方 ・ITを活用した博物館機能の充実
11月2日	第2回経営・企画委員会	・小委員会での検討状況報告 ・館の中長期展望、事業の運営改善（目標設定による事業運営）等 ・常設展など展示のあり方、ITを活用した博物館機能の充実
12月16日	マネージメント・特別展情報収集等小委員会①	・京都文化博物館のマネージメント（目標管理等）について ・常設展料金等料金体系の見直しについて ・特別展情報収集について
12月28日	別館活用小委員会①	・にぎわい創出事業の進捗状況について ・にぎわい創出事業の具体的な方向性について
平成17年1月12日	別館活用小委員会 ワーキング・グループ会議①	・別館事業計画のソフト面について①
2月2日	別館活用小委員会 ワーキング・グループ会議②	・別館事業計画のソフト面について②

経営・企画委員会委員名簿

委員名	現 職
赤間 亮	立命館大学アート・リサーチセンター副センター長
小田 靖弘	(株) ネットワークプレーン代表取締役
河合 満朗	(株) シー・ディー・アイ取締役主任研究員（経営・企画委員会副座長）
下田 元美	京都府文化芸術室長
中村伊知哉	コンサルティングフェロー、スタンフォード日本センター研究所長
西村 恭子	美術プロデューサー
原野 聡	電通パブリックリレーションズ（東京）メディア・リレーションズ部ディレクター
安田 徹	中小企業診断協会京都支部長
山本 壯太	NHK 大阪文化センター取締役総支社長（経営・企画委員会座長）
渡辺 敏幸	前新風館館長、NTT 都市開発（株）東京本社開発推進部担当部長

7-2 組織と職員

(1) 組織



※総務課（総務・経理係）は京都文化財団本部総務課を兼ねる。

(2) 京都文化財団役員

役員名簿

2006年(平成18年)3月31日現在

職名	氏名	所属等		職名	氏名	所属等	
顧問	林田悠紀夫	元京都府知事		理事	芝田 米三	洋画家	
	山田 啓二	京都府知事			田中 恆清	石清水八幡宮宮司	
	岡本 道雄	京都大学名誉教授、前京都文化財団理事長			角田 文衛	古代学協会理事長	
理事長	荒巻 禎一	前京都府知事、京都文化博物館館長			堂本 元次	日本画家	
副理事長	千 玄室	前茶道裏千家家元			西村 恭子	美術プロデューサー	
	麻生 純	京都府副知事			野中 信夫	NPO MCEI 専務理事	
常務理事	安井 恒夫	京都文化博物館副館長			藤田 哲也	京都府教育委員会委員長	
理事	有馬 頼底	相国寺管長		* 監事	増田 正蔵	京都新聞社代表取締役会長兼社長	
	池坊 由紀	華道家元池坊次期家元			村井 康彦	京都市美術館館長	
	井上八千代	京舞井上流家元			村田 純一	京都商工会議所会頭	
	今井 政之	陶芸家			山本 壯太	NHK 大阪文化センター取締役総支社長	
	岩淵龍太郎	京都市立芸術大学名誉教授			下田 元美	京都府府民労働部文化芸術室室長	
	奥村 泰三	京都府社会教育委員連絡協議会会長	*		岡田 博邦	京都銀行協会専務理事	
	門脇 禎二	京都府立大学名誉教授			泉谷 隆信	京都府出納管理局局長	*
	神林 恒道	立命館大学アート・リサーチセンター長					

* 2005年6月22日就任

(3) 京都文化博物館職員

職員名簿

2006年(平成18年)3月31日現在

所属	職名	氏名	担当業務	備考
	館長	荒巻 禎一	館総括	財団理事長
	副館長	安井 恒夫	館業務総括	財団常務理事・事務局長
総務課	課長・事業推進係長事務取扱	藤井 貢	課総括	財団本部事務局兼務
	参事・総務係長事務取扱	金田 暁	総務係	財団本部事務局兼務
	主幹・経理係長事務取扱	丹新 正雄	経理係	財団本部事務局兼務
	主任	森木 礼子	経理係	財団本部事務局兼務
	主任	佐藤 幸央	総務係	財団本部事務局兼務
	主事	海老名和孝	総務係	財団本部事務局兼務
	参事・文化財保護基金室長	上田 勝	総務課兼務	財団本部事務局文化財保護基金室 2006.4 ~
	主査	西田 早苗	事業推進係	2006.4 ~
	主事	磯野真知子	事業推進係	
	主事	森 雅樹	事業推進係	
	主事	市川 彰	事業推進係	
学芸課	課長・映像情報室長事務取扱	山本 俊介	課総括	
	参事(主任学芸員)	鈴木 忠司	歴史・考古担当	
	主任学芸員	植山 茂	歴史・考古担当	
	主任学芸員	南 博史	歴史・考古担当	
	学芸員(専門員)	土橋 誠	歴史・文献担当	
	学芸員(専門員)	大塚 活美	歴史・民俗担当	
	学芸員(主任)	藤本 恵子	工芸担当	
	学芸員	長舟 洋司	美術担当	
	学芸員	洲鎌佐智子	工芸担当	
	学芸員	野口 剛	美術担当	
	学芸員(主任)	森脇 清隆	映像・情報担当	
	嘱託	井上 大輔	映像・情報担当	常勤 2006.4 ~
	嘱託	青木 完一	映像	非常勤

7-3 施設

(1) 本館関係

所在地：京都市中京区高倉通三条上ル東片町623-1

設計：京都府土木建築部営繕課・(株)久米建築事務所

施工期間：1986年10月～1988年9月

敷地面積：4,790.35㎡（別館を含む）

建築面積：3,481.04㎡（別館を含む）

延床面積：15,827.42㎡（別館を含む）

本館床面積内訳：

地階 2,242.42㎡／1階 2,265.29㎡

2階 1,853.39㎡／3階 1,908.79㎡

4階 1,442.19㎡／5階 1,442.19㎡

6階 1,218.28㎡／7階 1,010.43㎡

塔屋 182.88㎡

構造：鉄骨鉄筋コンクリート造／一部鉄骨造

(2) 別館関係

所在地：京都市中京区三条通高倉西入ル菱屋町48番地

設計：辰野金吾・長野宇平治

施工期間：1903(明治36)年9月～1906(明治39)年6月

延床面積：2,261.56㎡

別館構造：建築面積—819.67㎡

煉瓦造、2階建一部地下1階

スレート・銅板葺、両翼塔屋付

旧金庫構造：建築面積—187.10㎡

煉瓦造、1階建、棧瓦葺

指定：重要文化財

指定名称：旧日本銀行京都支店

指定年月日：1969年3月12日

指定書番号：建第1,708号

7-4 ろうじ店舗

「ろうじ店舗」は当館1階にあり、江戸時代末期の京町家の外観を復元したものである。高倉通側には京料理などの飲食店、内側の路地には京物と呼ばれる伝統工芸品や土産物を扱う物販店が営業している。また、別館リニューアルに伴い別館東側展示室を店舗として活用することとし、5月より名店会、和座百衆が営業を開始した。

ろうじ店舗各店で作る「ろうじ店舗博和会」は当館の協力会として催しにあわせて積極的に活動している。

本年度のろうじ店舗利用者は190,409人であった。

① ろうじ店舗一覧

◇紙の店—楽紙館

◇京しゅみ—菰軒

◇京のエッセンス17舗名店会（順不同）

薫香—松栄堂

京麩—半兵衛麩

念珠—福永念珠舗

京菓子—鼓月

京佃煮—野村

宇治茶—福寿園

京扇子—とくの

京象嵌—川人象嵌

八つ橋—井筒八ツ橋

京の雅—古澤仙壽堂

京小間物—光悦

野菜せんべい—京煎堂

京風雅便箋—表現社

化粧小物—左り馬

縮緬小物—くろちく

京つけもの—西利

竹の匠—高野竹工

◇町家料理 烏彌三—あざみ（2004年11月入店）

◇手打ちそば・蕎麦料理—有喜屋

◇豆腐料理—有福

◇エスプレッソコーヒーの店—コロラドコーヒー

◇織屋直販店—ショップ西陣（順不同）

風呂敷—上羽機業

絹のれん—渡文

バグー—小森織物

ネクタイ—段下二郎

綴れグッズ—暁山織物

テーブルクロス—瀬川工芸織物

◇珈琲サロン（別館）—阿蘭陀館

◇ミュージアムショップ（エントランス）—便利堂

② 別館店舗一覧

◇名店会

◇住遊生活—和座百衆

③博和会・ろうじ行事

ろうじ店舗東側通路の利用状況

区 分	名 称	月 日
博和会行事	呉美の市	6月 3日～ 5日
	呉美の市	9月 17日～ 19日
	呉美の市	11月 18日～ 20日
	呉美の市	平成 17年 3月 24日～ 26日
地域活用	京都府立図書館子ども絵手紙コンテスト	4月 23日～ 5月 7日
	高倉小学校卒業生け花展	平成 18年 2月 22日～ 24日
	池坊華道会生け花展	平成 18年 3月 11日～ 12日
とうりゃんせ	塩野呉服店	7月 2日～ 17日 (内8日間利用)
	京扇子とくの	7月 15日～ 16日
館内利用	アートフリーマーケット	平成 17年 10月 14日～ 16日
	アートフリーマーケット	平成 18年 3月 17日～ 19日

8. 2005（平成17）年度のあゆみ

事項欄の「MH」は映像ホール、「AH」は別館ホール、「AL」は別館講義室、「AE」は別館東室の略

月 日	事 項	月 日	事 項
2005年		8月 6日	オレゴンからやってきた3人 (AH)
4月 2日	「人体の不思議展」開催（～5月22日／3・4階）	7日	サマーカーニバル カントリー&ウエスタン (AH)
9日	「MOKの会」2005年度総会（7階サロン）	9日	博物館実習 第1組（～12日）
17日	姉小路界限を考える会講演会 (AH)	9日	歴史特別陳列「伏見人形」（～11月13日）
23日	歴史常設展展示解説（土橋／2階）	14日	美術工芸常設展ワークショップ（洲鎌／3階）
23日	子ども読書絵手紙コンテスト表彰式 (AH)	16日	源氏物語と京都「六條院へでかけよう」 （～9月10日／AH）
26日	全国月の友の会絆月会 in Kyoto（～29日／AH）	16日	歴史常設展展示解説（大塚／2階）
5月 2日	「人体の不思議展」月曜臨時開館	16日	友の会見学会 第1回 萬福寺山内と松隠堂修理工事現場
14日	別館リニューアルオープン	9月 9日	歴史常設展展示解説（土橋／2階）
15日	Charme Spring Concert (AH)	10日	「MOKの会」9月例会（7階サロン）
22日	キタガワ祇恵子プロデュースダンス公演2005 「花薔薇」(AH)	10日	「松島・天橋立・厳島 日本三景展」開催 （～10月16日／4階）
25日	メテウンデ展（～29日／AH）	13日	博物館実習 第2組（～16日）
28日	歴史常設展展示解説（南／2階）	13日	ろうじ呉美の市（～19日）
29日	通崎睦美マリンバコンサート (AH)	17日	「日本三景展」ギャラリートーク（野口／4階）
31日	体験学習「蹴鞠」(AH)	17日	三条あかり景色（～19日／AH）
6月 3日	ろうじ呉美の市（～5日）	17日	「MOKの会」スカイふれあいフェスティバル 2005年度総会参加（～18日）
4日	IT・墨・ファッションのKYOTO WEEK (AH)	19日	グループLydia コンサート (AH)
4日	「千總コレクション 京の優雅展」 開催（～7月18日／3・4階）	23日	「日本三景展」シンポジウム （島尾、長谷川、堀野、伊藤、知念各氏 AH）
5日	Jazz at the Sanjo Bunka Museum (AH)	25日	アマデウス マイコンサート (AH)
11日	京都フランス歌曲協会クレールコンサート (AH)	28日	京都フィルハーモニー室内合奏団定期演奏会 (AH)
11日	歴史常設展展示解説（植山／2階）	29日	園まなみシャンソンコンサート (AH)
11日	「MOKの会」新人研修（7階サロン）	10月 1日	平安京サミット～京雀 都のにぎわい～ （～2日／AH）
12日	「京の優雅」展講演会（切畑氏／AH）	7日	京都府まちづくりワークショップ (AH)
14日	歴史特別陳列「祇園祭」（～8月7日）	8日	知事と和い和いミーティング (AH)
18日	「京の優雅」展ギャラリートーク （藤本・野口／4階）	8日	「日本三景展」ギャラリートーク（野口／4階）
18日	アンサンブルの夕べ	9日	Dancing Flowers –インスピレーション– (AH)
18日	「MOKの会」6月例会（7階サロン）	14日	京都アートフリーマーケット2005秋 （～16日／AH）
19日	佛教大学混成合唱団 Summer Concert (AH)	19日	協同組合和座百衆創立 10周年「優良組合表彰受賞」 記念展示発表会 (AH)
21日	友の会文化講座 第1回「京の優雅展」(藤本／AL)	22日	歴史常設展展示解説（南／2階）
24日	埼玉県春日部市立豊春中学校合唱講習会 (AH)	22日	「バツハアカデミー関西」教会暦によるカンタータ (AH)
25日	声楽コンサルテ・ルナ・エ・ソレ コンサート (AH)	23日	オカリナアンサンブルファイブピーンズ AUTUMN Concert (AH)
26日	クラリネットとピアノのデュオコンサート (AH)	25日	オクトーバーフェスト・イン京都文化博物館 （～28日／AH）
7月 2日	「京の優雅」展ギャラリートーク （藤本・野口／4階）	29日	「偉大なるシルクロードの遺産展」 開催（～12月4日／4階）
2日	とうりゃんせ（～17日／ろうじ）	11月 1日	京の伝統工芸体験教室 (AH)
3日	「バツハアカデミー関西」 教会暦によるカンタータ (AH)	1日	「知って納得 使えるキモノ再発見」 セミナー 1 (AH)
9日	Kyoto 建築士 2005（～10日／AH）	2日	京の伝統工芸体験教室 (AH)
12日	レトワール・フランシェ定期演奏会 (AH)	2日	「知って納得 使えるキモノ再発見」 セミナー 2 (AH)
14日	1,000万人突破記念感謝デー（～16日）	3日	きもの縁日 和・クラフトメッセ (AH)
14日	「京の優雅」展 8:30まで開館時間の延長 （～16日／4階）	5日	オータムコンサート（声楽と合唱）(AH)
15日	歴史常設展展示解説（大塚／2階）	8日	The Pearls Before Swine Experience 現代特殊奏 法マスタークラス (AH)
15日	とうりゃんせ（～16日／ろうじ）	9日	The Pearls Before Swine Experience 現代特殊奏 法マスタークラス (AH)
17日	一不死・アムリタ インドの聖典 (AH)	11日	ステンドグラス展 10th anniversary「ワタシハガラ スノ料理人」（～13日／AH）
24日	京都の躰を語る女性の会 おがたまの木コンサート (AH)		
24日	美術工芸常設展ワークショップ（谷口氏／3階）		
28日	世界合唱祭 京都 Voice Cafe Live (AH)		
30日	「無言館 遺された絵画展」開催 （～8月28日／4階）		
31日	フェリックス室内合奏団定期演奏会 (AH)		
31日	美術工芸常設展ワークショップ（洲鎌／3階）		

12日	「偉大なるシルクロードの遺産展」ギャラリートーク (柴田氏/4階)	1月17日	2005 光彩の響 日本ステンドグラス協会展 (~22日/AH)
12日	「MOKの会」見学研修会 (於:河村能楽堂)	18日	友の会文化講座 第2回「京都の前衛陶芸『四耕会』から『走泥社』まで」(林康夫/AL)
15日	歴史特別陳列「仮名の世界」(~12月11日)	29日	アマデウス・クラシックライブラリー6 (AH)
15日	「和の服というキモノ」展 (~16日/AH)	2月1日	京都プレスセカンドライブ (~5日/AH)
17日	「MOKの会」京都府生涯学習文化施設ボランティア連絡会参加	7日	京都フィルハーモニー室内合奏団定期演奏会(AH)
18日	アトリエエンジェルステンドグラス展(~20日/AH)	11日	同志社学生混声合唱団 C.C.D フェアウェルコンサート (AH)
18日	ろうじ呉美の市 (~20日)	11日	「京都府美術工芸新鋭選抜展」開催 (~2月26日/4階)
19日	「偉大なるシルクロードの遺産展」ギャラリートーク (西林氏/4階特別展示室)	18日	第1回 きょうと文博骨董まつり (AH)
19日	「遺された絵画展」講演会 (窪島氏/AH)	18日	歴史常設展展示解説 (鈴木/2階)
23日	秦泉寺由子パッチワーク・キルトスクール作品展 (~27日/AH)	19日	ゆめっとフォーラム「職業」~自分の道を歩くのだ (AH)
27日	歴史常設展展示解説 (土橋/2階)	21日	クリエイティブ of HAIR ~東洋へのこだわり~ (AH)
12月3日	合唱団 Das Heberachen 演奏会 (AH)	22日	高倉小学校生け花展 (~24日/ろうじ)
4日	京都室内合唱団定期演奏会クリスマスコンサート (AH)	25日	Musica Fiorita ~春にあこがれて~ (/AH)
6日	How are you, PHOTOGRAPHY? 展 (~11日/AH)	26日	第2回 BELLE NOTE 春を告げる Embrio コンサート (AH)
13日	歴史特別陳列「煮る・炊く・擗る-出土した炊事・調理器具-」(~2006年4月16日)	3月1日	京鹿の子絞工芸展 (~2日/AH)
17日	月輪に覗きキモノ ファッションショー (AH)	3日	KPA 京プリント後継者育成事業メイキングショップ2006 (~5日/AH)
17日	歴史常設展展示解説 (鈴木/2階)	9日	日本映画監督協会70周年記念上映会ギャラリートーク (森脇/MH)
17日	「柳宗悦の民藝と巨匠たち展」開催 (~2006年1月29日/4階)	11日	池坊華道会生け花展 (~12日/ろうじ)
20日	友の会見学会 第2回 同志社大学寒梅館及びクラーク記念館	11日	「京の食文化展」開催 (~4月16日/4階)
21日	BS MUSE (AH)	15日	「京の食文化展」ギャラリートーク (大塚/4階)
23日	合唱団「葡萄の樹」くりすますこんさーと (AH)	17日	アートフリーマーケット (~19日/AH)
24日	翔ユリ子クリスマスコンサート 聖夜一愛の贈り物- (AH)	18日	「MOKの会」3月例会 (7階サロン)
2006年		21日	SANISAI LIVE2006「GREETINGS」in Kyoto (AH)
1月4日	SANISAI LIVE2006「GREETINGS」in Kyoto (AH)	22日	専門学校飛騨国際工芸学園 (~26日/AH)
4日	専門学校飛騨国際工芸学園 Show & Shop2006 進級卒業家具展 (~26日/AH)	22日	「京の食文化展」ギャラリートーク (竹下氏/4階)
7日	歴史常設展展示解説 (土橋/2階)	23日	友の会文化講座 第3回「京の食文化展と復元食の試食」(大塚/4階・AL)
8日	柳宗悦展協賛 京都文博骨董まつり (~9日/AH)	24日	ろうじ呉美の市 (~26日)
13日	平井真美子ピアノダイアリー (AH)	24日	復元映画上映会ギャラリートーク (森脇/MH)
14日	「柳宗悦の民藝と巨匠たち展」講演会(尾久氏/AH)	25日	歴史常設展展示解説 (植山/2階)
14日	「MOKの会」1月例会 (7階サロン)	26日	復元映画上映会ギャラリートーク (森脇/MH)
15日	京都マチネー・ポエティック フランス詩とシャンソンの午後 (AH)	29日	「京の食文化展」ギャラリートーク (土橋/4階)
		4月1日	「京の食文化展」講演会 (久保氏/MH)

京都文化博物館 2005 (平成 17) 年度年報

発行日 2007年3月20日
編集・発行 京都府京都文化博物館
〒604-8183 京都市中京区三条高倉
TEL 075-222-0888
FAX 075-222-0889
印刷 (株)吉川印刷工業所